

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年7月30日(2009.7.30)

【公表番号】特表2008-545793(P2008-545793A)

【公表日】平成20年12月18日(2008.12.18)

【年通号数】公開・登録公報2008-050

【出願番号】特願2008-515915(P2008-515915)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/18 (2006.01)

A 6 1 K 31/166 (2006.01)

A 6 1 K 31/415 (2006.01)

A 6 1 K 31/426 (2006.01)

A 6 1 K 31/167 (2006.01)

A 6 1 K 31/53 (2006.01)

A 6 1 K 31/505 (2006.01)

A 6 1 K 31/136 (2006.01)

A 6 1 K 31/40 (2006.01)

A 6 1 K 31/4045 (2006.01)

A 6 1 K 31/655 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/08 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 27/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 0 7 C 233/69 (2006.01)

C 0 7 C 311/17 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

C 0 7 D 231/38 (2006.01)

C 0 7 H 19/12 (2006.01)

C 0 7 D 239/46 (2006.01)

C 0 7 D 207/34 (2006.01)

C 0 7 D 209/42 (2006.01)

C 0 7 D 277/20 (2006.01)

C 0 7 D 277/50 (2006.01)

C 0 7 K 5/097 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 31/18

A 6 1 K 31/166
 A 6 1 K 31/415
 A 6 1 K 31/426
 A 6 1 K 31/167
 A 6 1 K 31/53
 A 6 1 K 31/505
 A 6 1 K 31/136
 A 6 1 K 31/40
 A 6 1 K 31/4045
 A 6 1 K 31/655
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 A 6 1 P 25/28
 A 6 1 P 25/14
 A 6 1 P 25/00
 A 6 1 P 25/16
 A 6 1 P 25/08
 A 6 1 P 25/02
 A 6 1 P 27/16
 A 6 1 P 25/24
 A 6 1 P 3/04
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 35/00
 C 0 7 C 233/69 C S P
 C 0 7 C 311/17
 A 6 1 P 21/00
 A 6 1 P 9/10
 C 0 7 D 231/38 B
 C 0 7 H 19/12
 C 0 7 D 239/46
 C 0 7 D 207/34
 C 0 7 D 209/42
 C 0 7 D 277/50
 C 0 7 K 5/097

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月2日(2009.6.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

T r k B 受容体に接触し、それを活性化し又はそれを抑止することにより治療できる疾患
 の治療を必要とする患者の疾患を治療するため又は神経細胞若しくはその他の細胞の生存
 を促進するための薬剤であって、有効量の、T r k B 受容体分子に結合特異性及び / 又は
調節特異性を持つ化合物から成り、該化合物が脳由来神経栄養因子 (B D N F) の - タ
ーンループの類似体である薬剤。

【請求項 2】

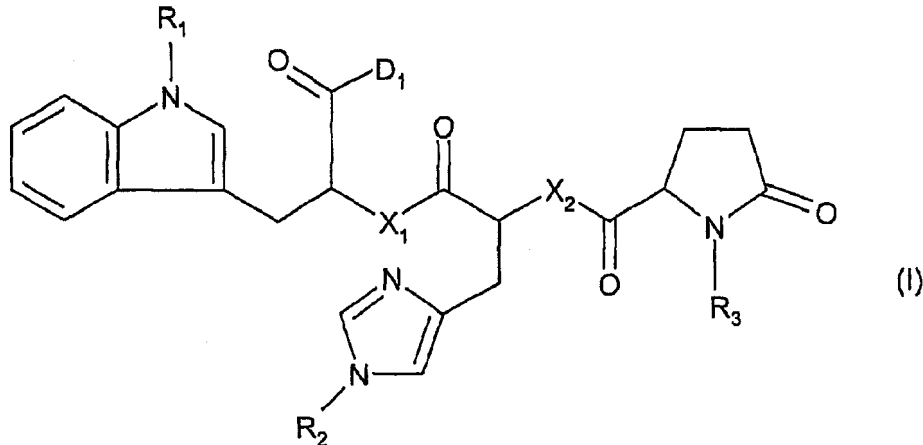
前記疾患が、アルツハイマー病、ハンチントン病、筋萎縮性側索硬化症、レット症候群、

てんかん、パーキンソン病、脊髄損傷、脳梗塞、低酸素症、虚血症、脳損傷、糖尿病性神経障害、末梢性神経障害、神経移植合併症、運動ニューロン病、多発性硬化症、HIV 痴呆症、末梢神経障害、聴力損失、鬱病、肥満症、メタボリックシンドローム、痛み、癌、及びその他の TrkB を発現する細胞の変性又は機能不全を含む病気からなる群から選択される請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 3】

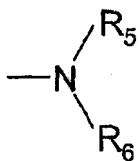
前記化合物が下記化学式 (I)

【化 1】



(式中、R₁、R₂ 及び R₃ は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され；X₁ 及び X₂ は、独立して、CH₂ 基及び NR₄ 基 (式中、R₄ は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され；D₁ は水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基及び下式の基

【化 2】

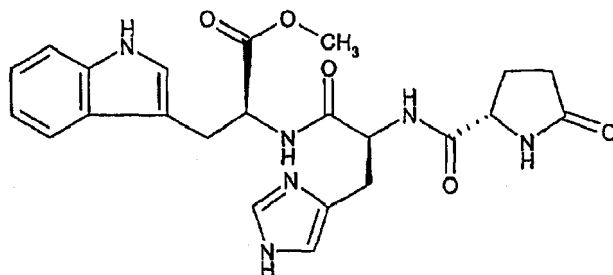


(式中、各 R₅ 及び R₆ は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリール基である。) からなる群から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 4】

前記化合物が下記構造

【化 3】

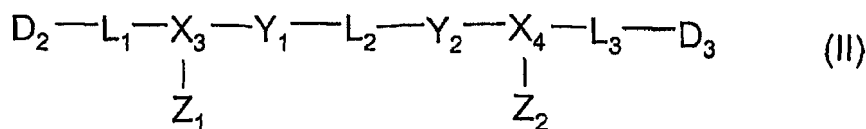


の化合物又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネート又はその立体異性体である請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の薬剤。

【請求項 5】

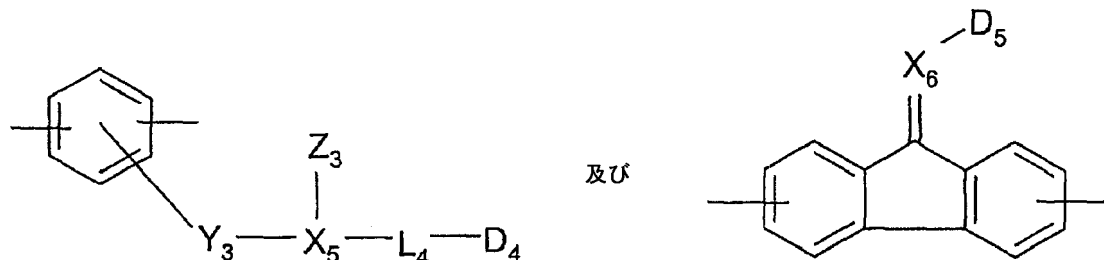
前記化合物が下記化学式 (II)

【化 4】



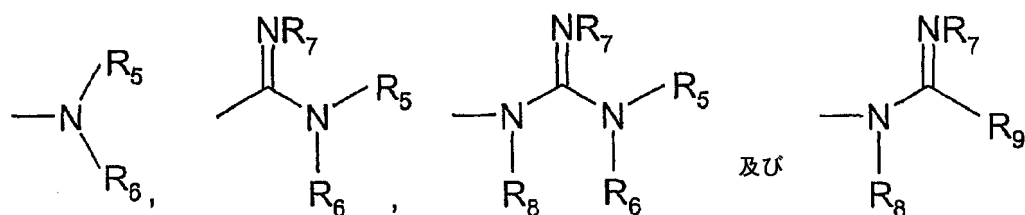
(式中、 L_1 及び L_3 は、独立して、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基及び置換アリーレン基からなる群から選択され； L_2 は、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基、置換アリーレン基、

【化 5】



からなる群から選択され； L_4 は、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基であり； Z_1 、 Z_2 及び Z_3 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基及びアラルキル基から選択され； X_3 、 X_4 、 X_5 及び X_6 は、独立して、N又はCH基であり； Y_1 、 Y_2 及び Y_3 は、独立して、カルボニル基、スルホニル基又はメチレン基であり； D_2 、 D_3 、 D_4 及び D_5 は、独立して、水素原子、アルキル基、ハロ基、水酸基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、アシルオキシ基、カルボキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

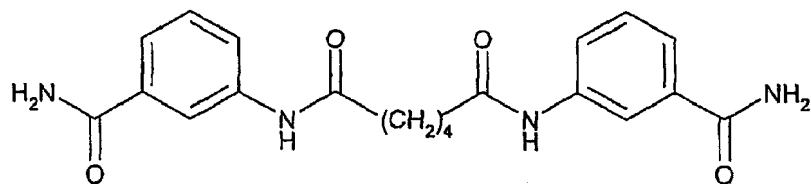
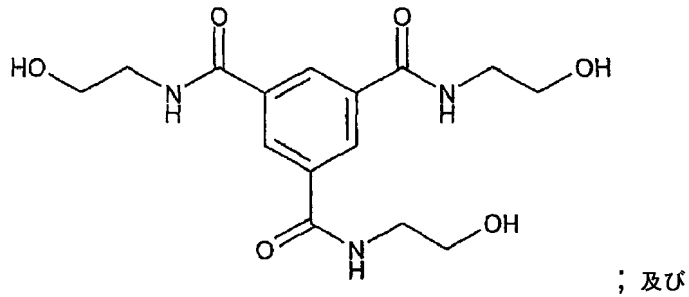
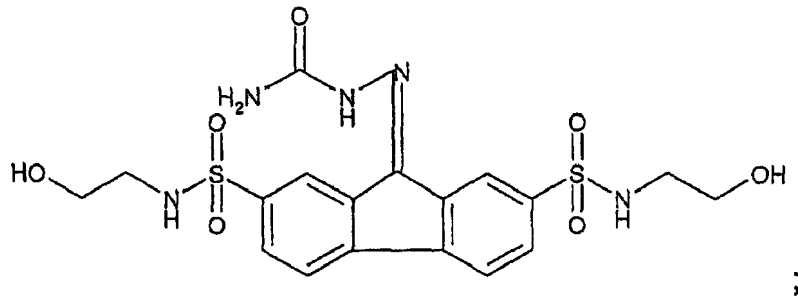


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 6】

前記化合物が下式

【化 7】

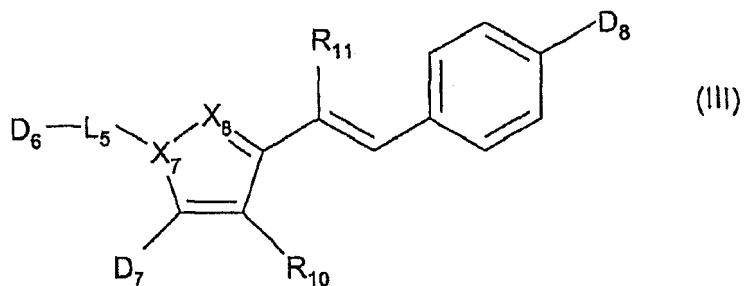


から成る群から選択される化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネート請求項 1、2 又は 5 に記載の薬剤。

【請求項 7】

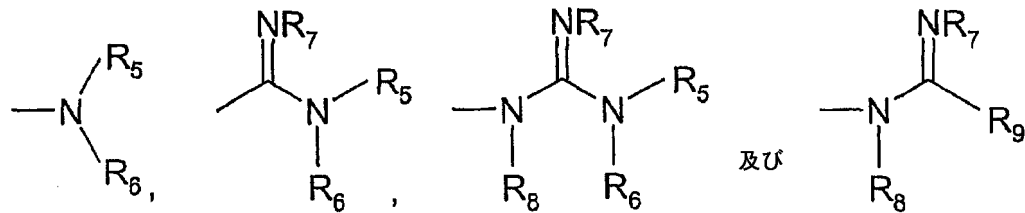
前記化合物が下記化学式 (III)

【化 8】



(式中、 L_5 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_7 及び X_8 は、独立して、N又はCH基であり； R_{10} 及び R_{11} は、独立して、水素原子、ハロ基、アルキル基及びシアノ基から成る群から選択され； D_6 、 D_7 及び D_8 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

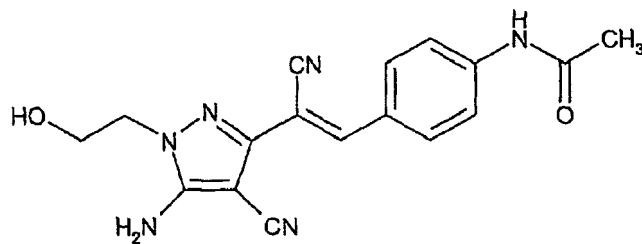


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 8】

前記化合物が下式

【化 9】

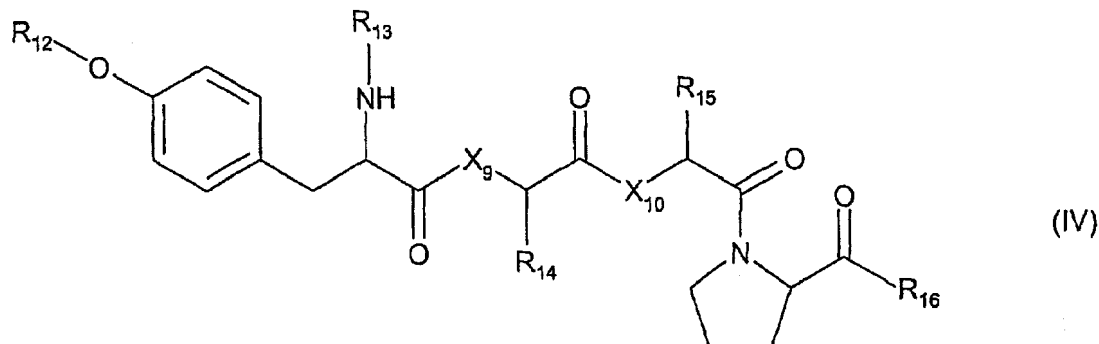


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 7 に記載の薬剤。

【請求項 9】

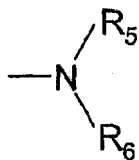
前記化合物が下記化学式 (IV)

【化 10】



(式中、 X_9 及び X_{10} は、独立して、 CH_2 基又は NR_4 基 (式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) であり； R_{12} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{13} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{14} 及び R_{15} は、独立して、水素原子、アルキル基、置換アルキル基及びアラルキル基からなる群から選択され； R_{16} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、及び

【化 2】

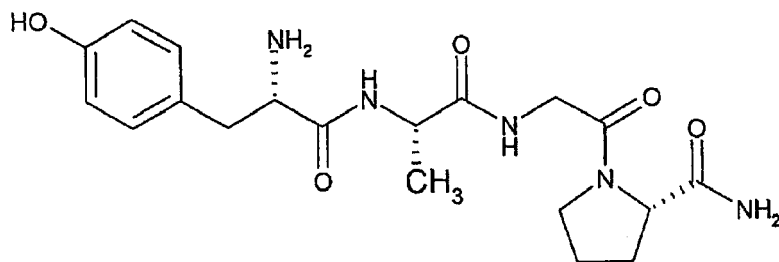


(式中、 R_5 及び R_6 は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリアル基から選択される。) からなる群から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 10】

前記化合物が下式

【化 11】

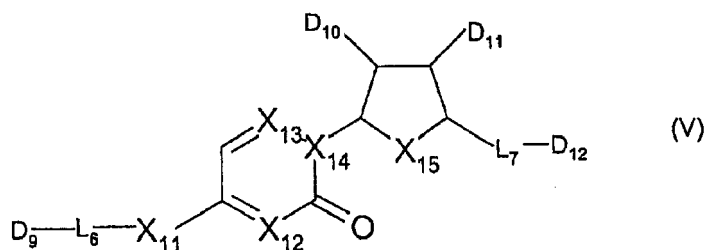


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネート又はその立体異性体である請求項 1、2 又は 9 に記載の薬剤。

【請求項 11】

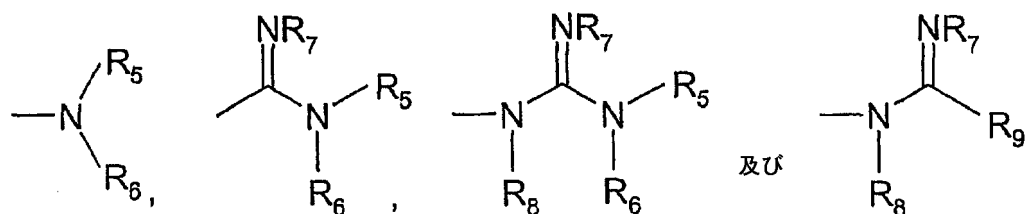
前記化合物が下記化学式 (V)

【化 12】



(式中、 L_6 及び L_7 は、独立して、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{11} は、O、S、 CH_2 基又は NR_{17} 基であり (式中、 R_{17} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリアル基から選択される。)； X_{12} 、 X_{13} 及び X_{14} は、独立して、N 又は CH 基であり； X_{15} は、O、S 及び NR_{18} 基 (式中、 R_{18} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリアル基から選択される。) から成る群から選択され； D_9 、 D_{10} 、 D_{11} 及び D_{12} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリアル基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリアルオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アシルオキシ基、カルボキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリアルオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

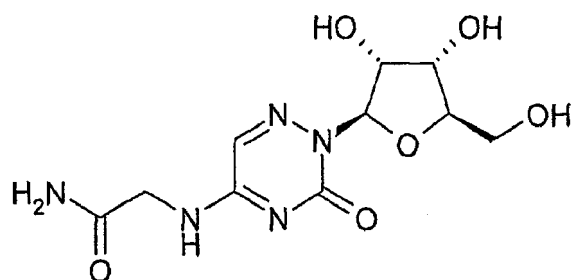


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 1 2】

前記化合物が下式

【化 1 3】

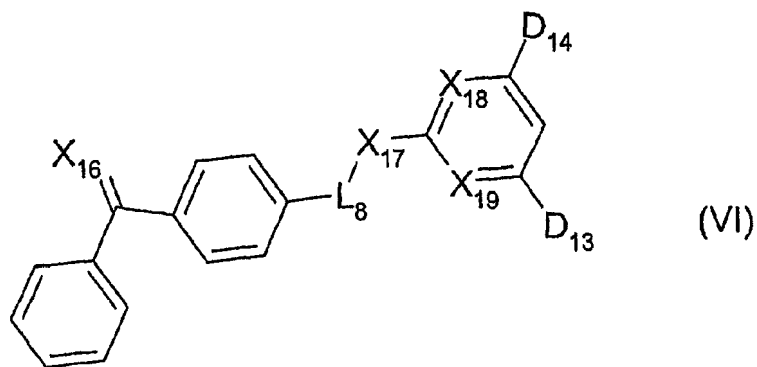


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネート又はその立体異性体である請求項 1、2 又は 1 1 に記載の薬剤。

【請求項 1 3】

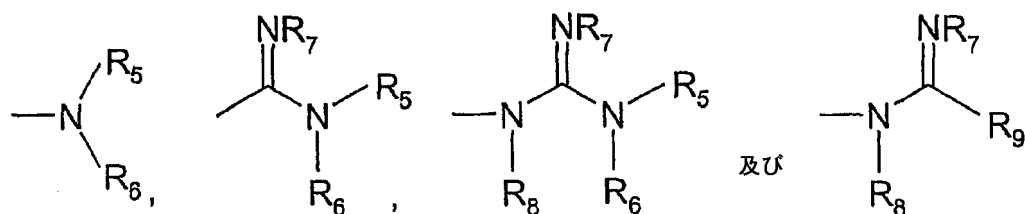
前記化合物が下記化学式 (VI)

【化 1 4】



(式中、 L_8 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{16} は、O、S 及び NR_{19} 基 (式中、 R_{19} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{17} は、O、S、 CH_2 基及び NR_{20} 基 (式中、 R_{20} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{18} 及び X_{19} は、独立して、N 及び CH 基から選択され； D_{13} 及び D_{14} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

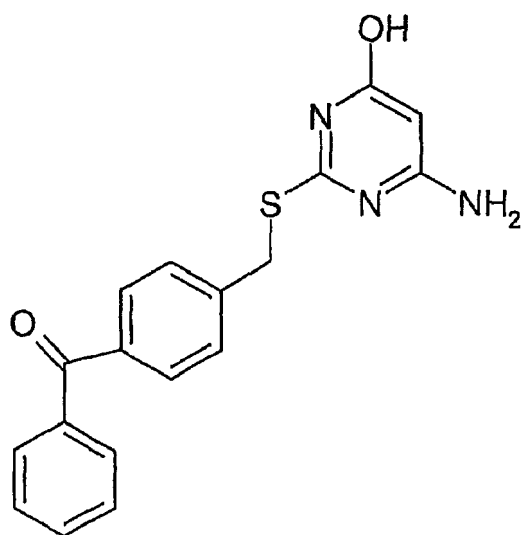


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 1 4】

前記化合物が下式

【化 1 5】

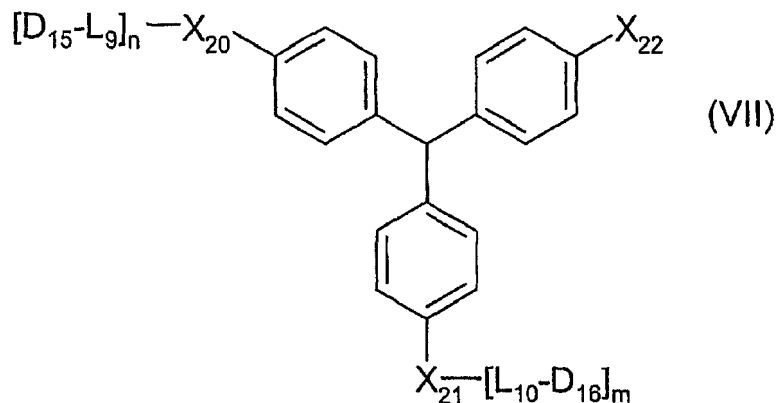


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 1 3 に記載の薬剤。

【請求項 1 5】

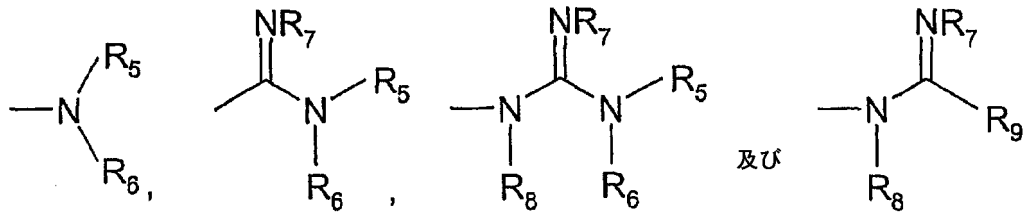
前記化合物が下記化学式 (VII)

【化 1 6】



(式中、 m 及び n は、独立して、1 又は 2 であり；各 L_9 及び L_{10} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{20} 及び X_{21} は、独立して、 CH 基、 CH_2 基、 N 及び NR_4 基 (式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{22} は、水素原子及び

ハロ基から選択され；各 D_{15} 及び D_{16} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、
【化 6】

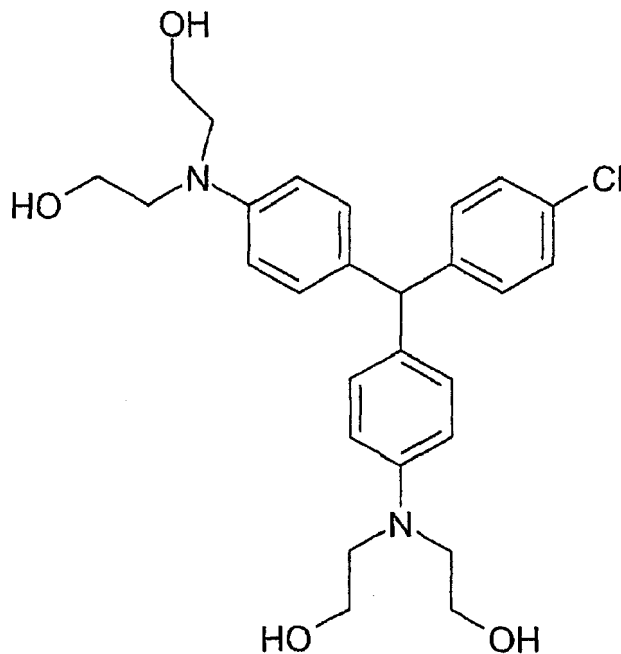


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 16】

前記化合物が下式

【化 17】

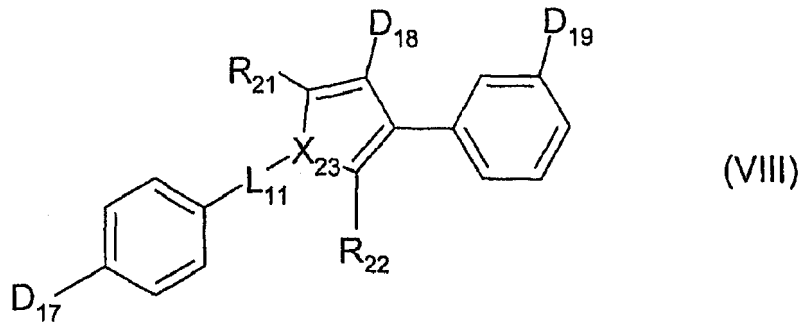


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 15 に記載の薬剤。

【請求項 17】

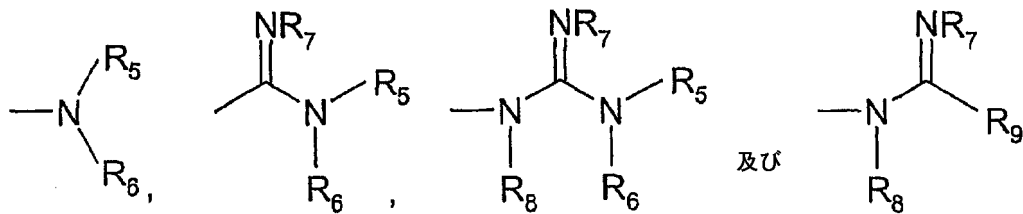
前記化合物が下記化学式 (VIII)

【化 1 8】



(式中、 L_{11} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{23} は、N又はCH基を表し； R_{21} 及び R_{22} は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{17} 、 D_{18} 及び D_{19} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

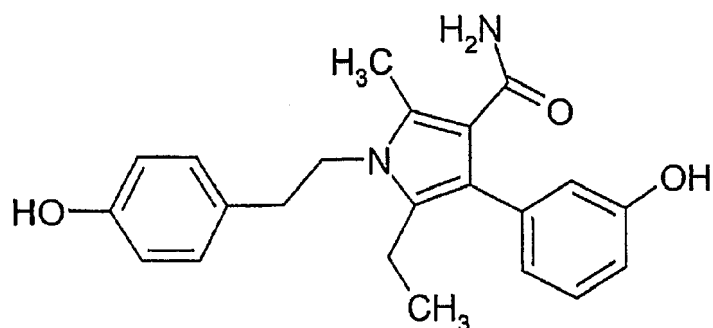
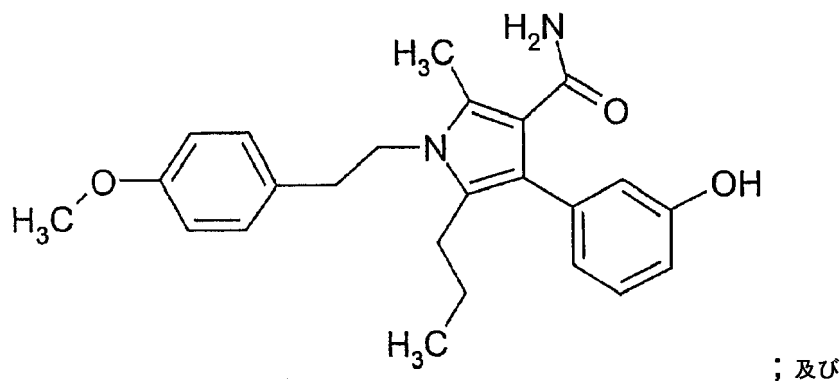
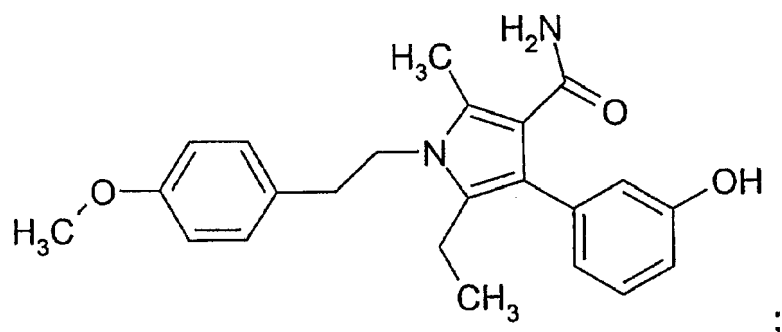


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 1 8】

前記化合物が下式

【化 1 9】

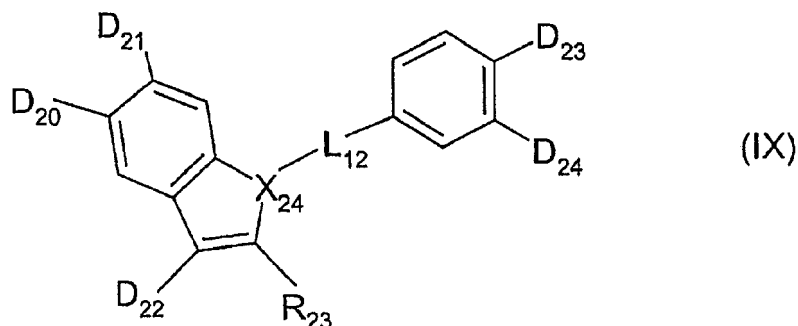


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートから成る群から選択される請求項 1、2 又は 17 に記載の薬剤。

【請求項 19】

前記化合物が下記化学式 (IX)

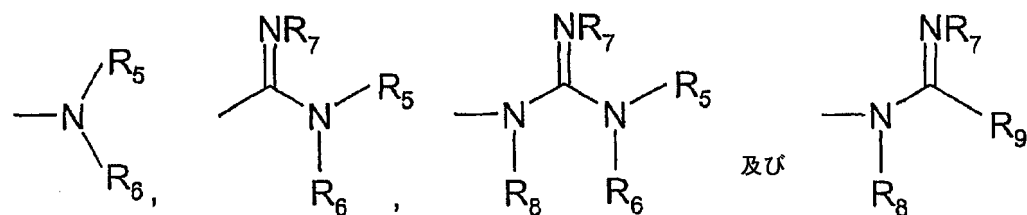
【化 20】



(式中、 L_{12} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{24} は、N 又は CH 基を表し； R_{23} は、水素原子、アルキル基、アラキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{20} 、 D_{21} 、 D_{22} 、 D_{23} 及び D_{24} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリ

ールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

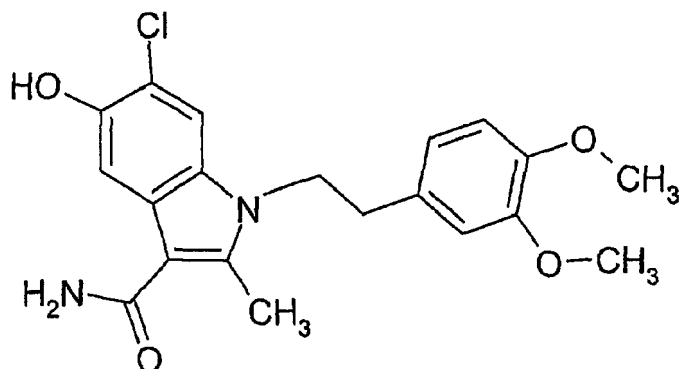


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 20】

前記化合物が下式

【化 21】

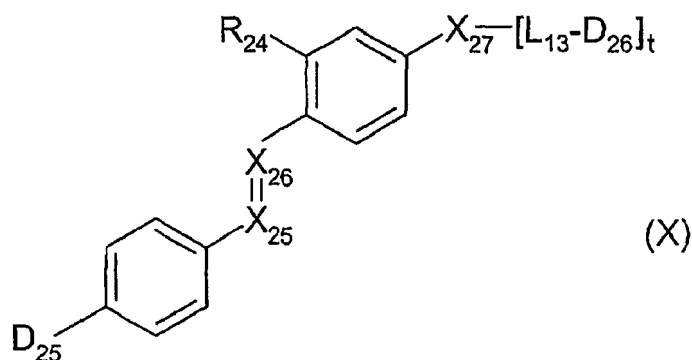


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 19 に記載の薬剤。

【請求項 21】

前記化合物が下記化学式 (X)

【化 22】

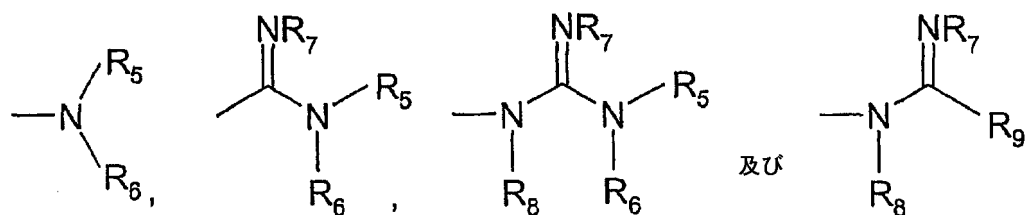


(X)

(式中、 t は 1 又は 2 であり；各 L_{13} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{25} 及び X_{26} は、N 及び CH 基から選択され； X_{27} は、N、CH 基、CH₂ 基及び NR_{25} 基 (式中、 R_{25} は水素原子又はアルキル基を表す。) から選択され； R_{24} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から選択され； D_{25} 及び各 D_{26} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリーロキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリーロキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基

、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

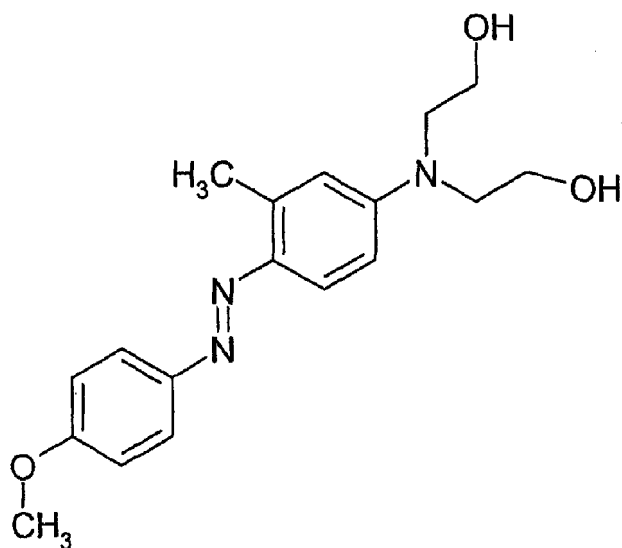


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 2 2】

前記化合物が下式

【化 2 3】

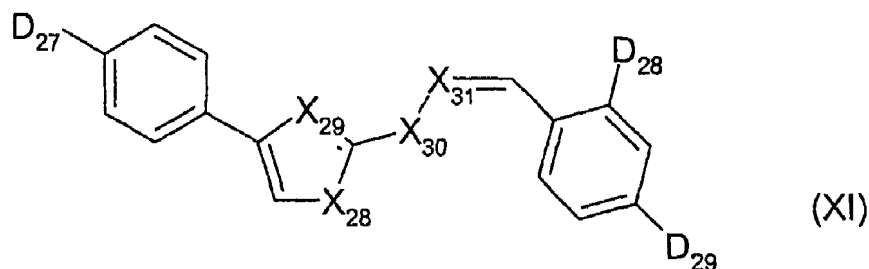


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 2 1 に記載の薬剤。

【請求項 2 3】

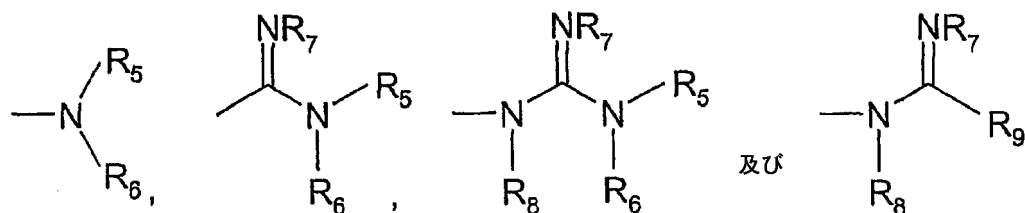
前記化合物が下記化学式 (XI)

【化 2 4】



(式中、 X_{28} は、 CH_2 基、O、S 及び NR_{26} 基 (式中、 R_{26} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{29} は、N 又は CH 基を表し； X_{30} は、 CH_2 基又は NR_{27} 基を表し (式中、 R_{27} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)； X_{31} は、N 又は CH 基を表し； D_{27} 、 D_{28} 及び各 D_{29} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、

アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、
【化 6】

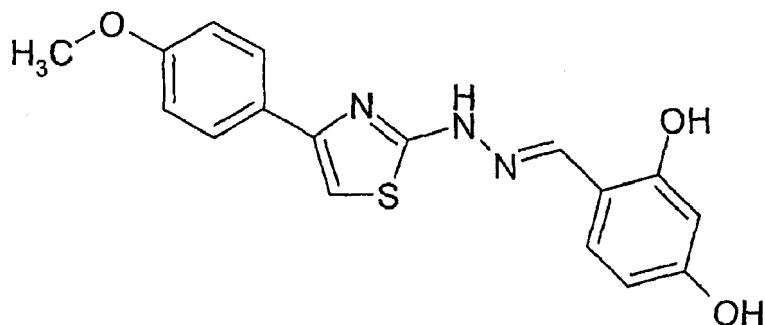


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1 又は 2 に記載の薬剤。

【請求項 2 4】

前記化合物が下式

【化 2 5】

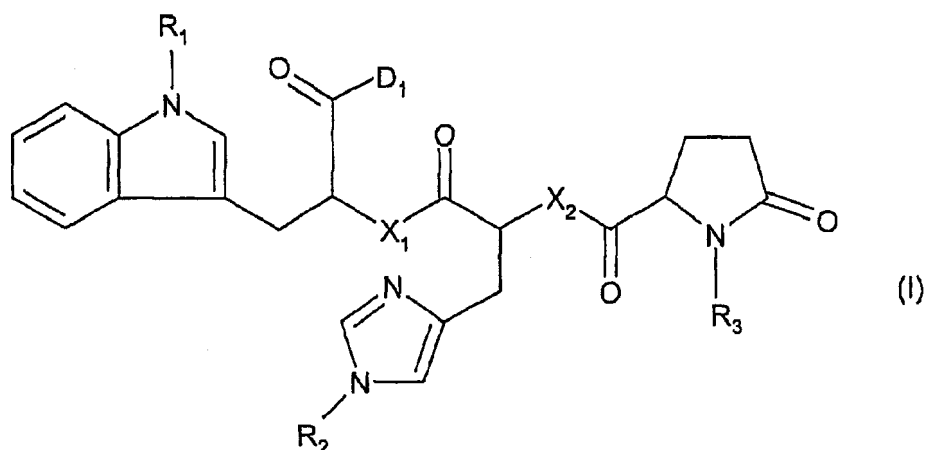


の化合物、又はその医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートである請求項 1、2 又は 2 3 に記載の薬剤。

【請求項 2 5】

TrkB 受容体に結合特異性及び / 又は調節特異性を持つ親化合物であって、該化合物が化学式 (I) ~ (XI) のいずれか 1 つの構造を有し、該化学式 (I) が下記

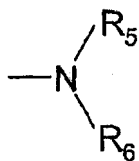
【化 1】



(式中、 R_1 、 R_2 及び R_3 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； X_1 及び X_2 は、独立して、 CH_2 基及び NR_4 基 (式中、

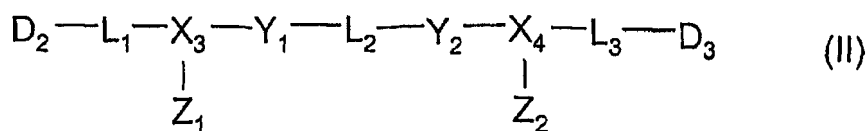
R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され; D_1 は水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基及び下式の基

【化 2】



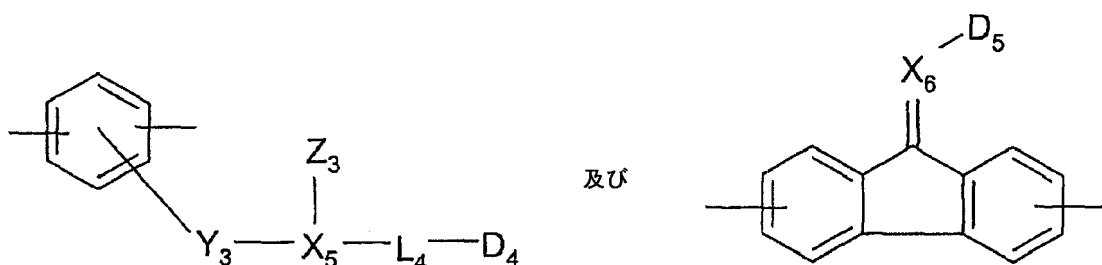
(式中、各 R_5 及び R_6 は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリール基である。) からなる群から選択される。) で表される構造を持ち、
該化学式 (II) が下記

【化 4】



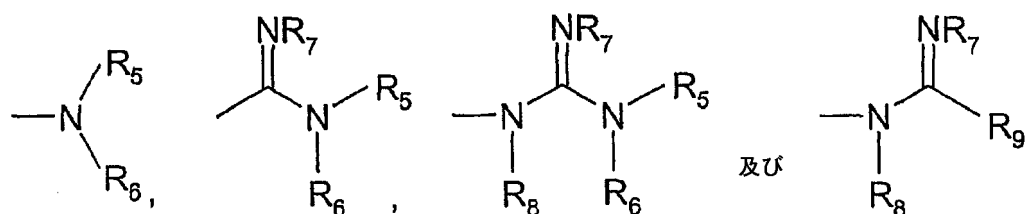
(式中、 L_1 及び L_3 は、独立して、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基及び置換アリーレン基からなる群から選択され; L_2 は、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基、置換アリーレン基、

【化 5】



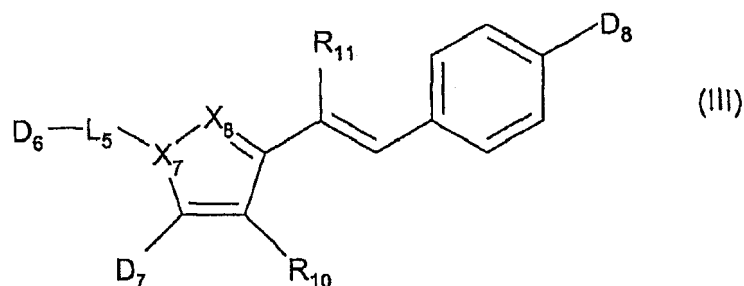
からなる群から選択され; L_4 は、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基であり; Z_1 、 Z_2 及び Z_3 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基及びアラルキル基から選択され; X_3 、 X_4 、 X_5 及び X_6 は、独立して、N又はCH基であり; Y_1 、 Y_2 及び Y_3 は、独立して、カルボニル基、スルホニル基又はメチレン基であり; D_2 、 D_3 、 D_4 及び D_5 は、独立して、水素原子、アルキル基、ハロ基、水酸基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、アシルオキシ基、カルボキシル基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



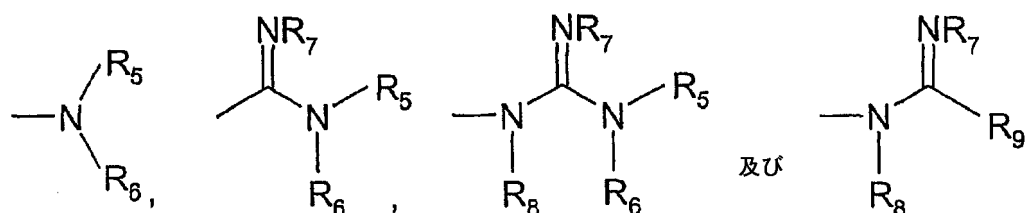
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (III) が下記

【化 8】



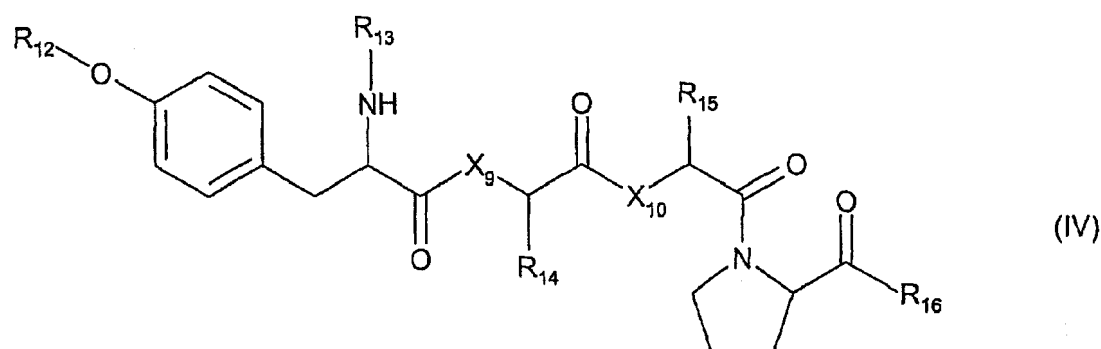
(式中、 L_5 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_7 及び X_8 は、独立して、N又はCH基であり； R_{10} 及び R_{11} は、独立して、水素原子、ハロ基、アルキル基及びシアノ基から成る群から選択され； D_6 、 D_7 及び D_8 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



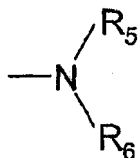
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (IV) が下記

【化 10】



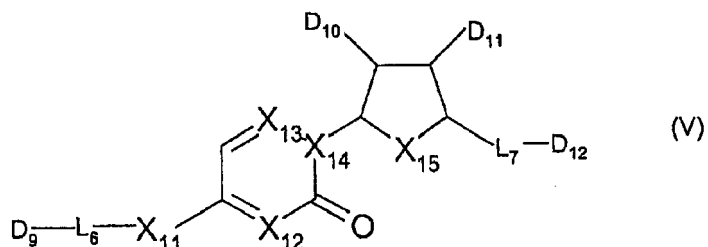
(式中、 X_9 及び X_{10} は、独立して、 CH_2 基又は NR_4 基 (式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) であり； R_{12} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{13} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{14} 及び R_{15} は、独立して、水素原子、アルキル基、置換アルキル基及びアラルキル基からなる群から選択され； R_{16} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、及び

【化 2】



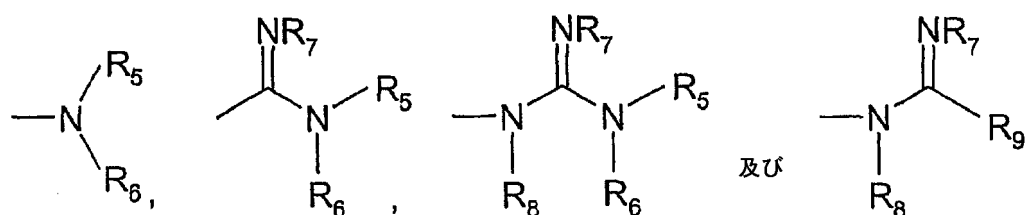
(式中、 R_5 及び R_6 は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリール基から選択される。) からなる群から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (V) が下記

【化 1 2】



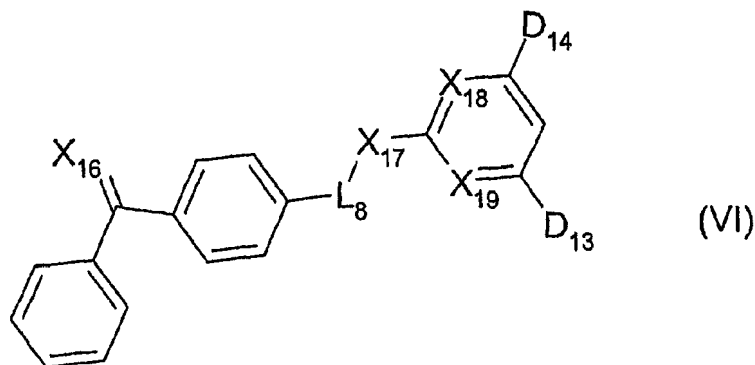
(式中、 L_6 及び L_7 は、独立して、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_5$ のアルキレン基を表し； X_{11} は、 O 、 S 、 CH_2 基又は NR_{17} 基であり (式中、 R_{17} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)； X_{12} 、 X_{13} 及び X_{14} は、独立して、 N 又は CH 基であり； X_{15} は、 O 、 S 及び NR_{18} 基 (式中、 R_{18} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から成る群から選択され； D_9 、 D_{10} 、 D_{11} 及び D_{12} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アシルオキシ基、カルボキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



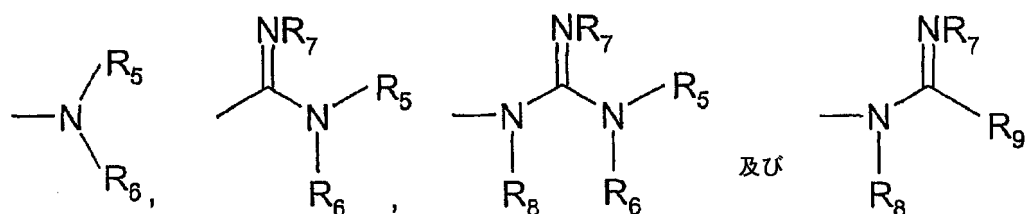
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (VI) が下記

【化 1 4】



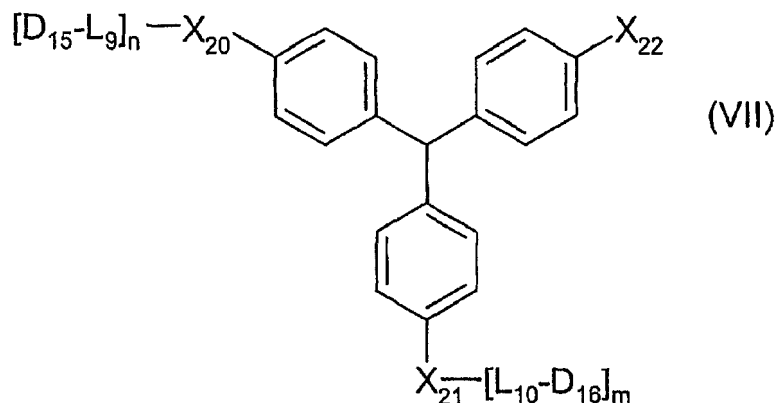
(式中、 L_8 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{16} は、O、S 及び NR_{19} 基（式中、 R_{19} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）から選択され； X_{17} は、O、S、 CH_2 基及び NR_{20} 基（式中、 R_{20} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）から選択され； X_{18} 及び X_{19} は、独立して、N 及び CH 基から選択され； D_{13} 及び D_{14} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



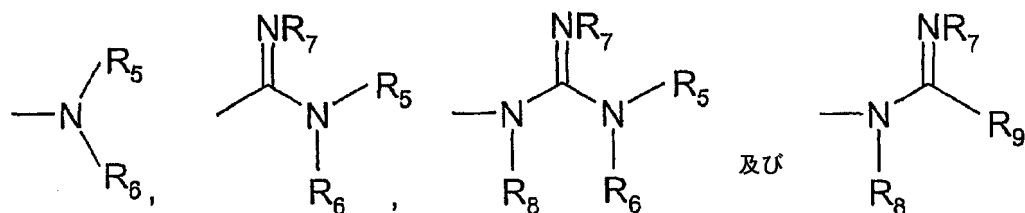
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (VII) が下記

【化 1 6】



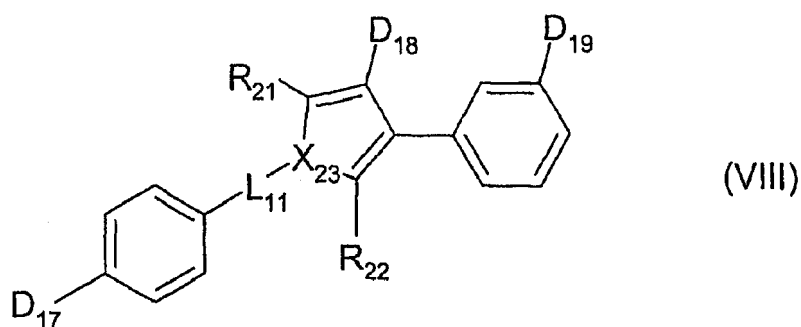
(式中、 m 及び n は、独立して、1 又は 2 であり；各 L_9 及び L_{10} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{20} 及び X_{21} は、独立して、CH 基、 CH_2 基、N 及び NR_4 基（式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）から選択され； X_{22} は、水素原子及びハロ基から選択され；各 D_{15} 及び D_{16} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ

基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、
【化 6】

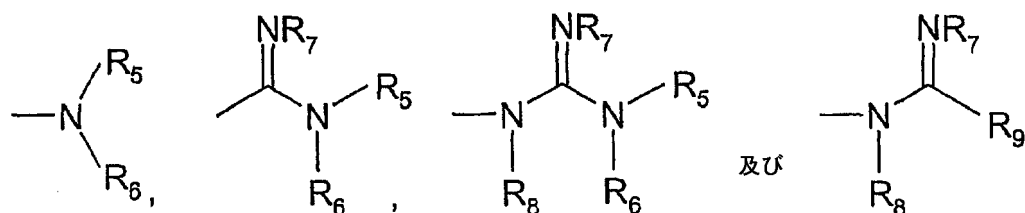


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (VIII) が下記

【化 18】

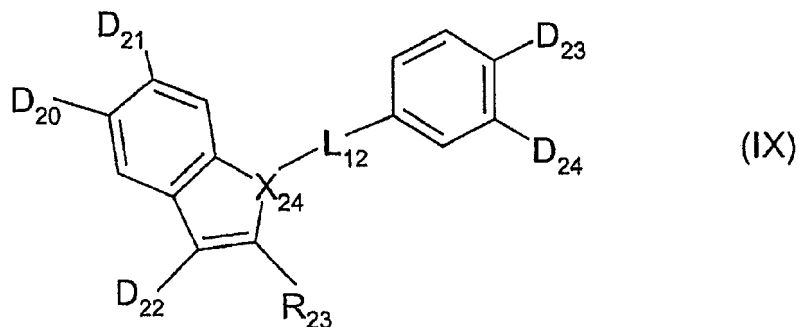


(式中、 L_{11} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{23} は、N又はCH基を表し； R_{21} 及び R_{22} は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{17} 、 D_{18} 及び D_{19} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、
【化 6】



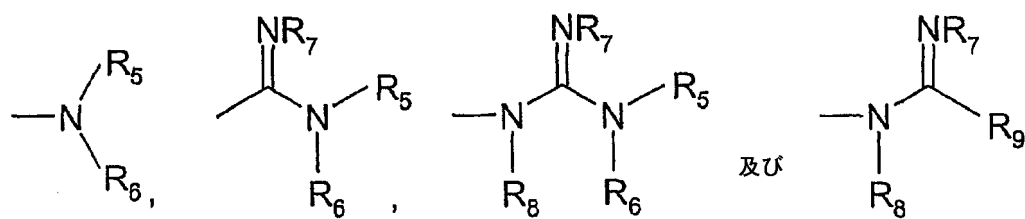
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (IX) が下記

【化 2 0】



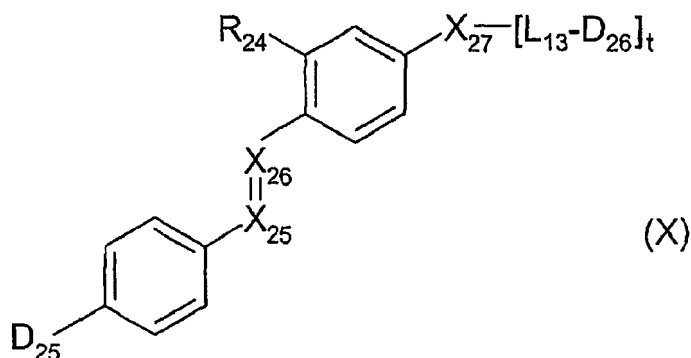
(式中、 L_{12} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{24} は、N又はCH基を表し； R_{23} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{20} 、 D_{21} 、 D_{22} 、 D_{23} 及び D_{24} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシル基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



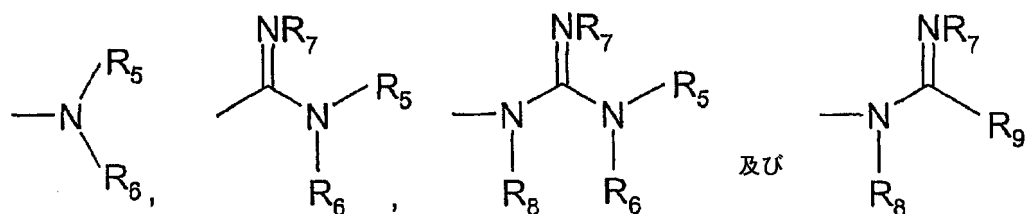
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)から選択される。)で表される構造を持ち、化学式(X)が下記

【化 2 2】



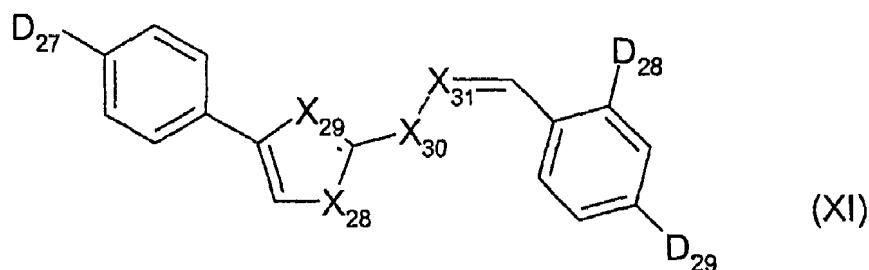
(式中、 t は1又は2であり；各 L_{13} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{25} 及び X_{26} は、N及びCH基から選択され； X_{27} は、N、CH基、 CH_2 基及び NR_{25} 基(式中、 R_{25} は水素原子又はアルキル基を表す。)から選択され； R_{24} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から選択され； D_{25} 及び各 D_{26} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシル基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



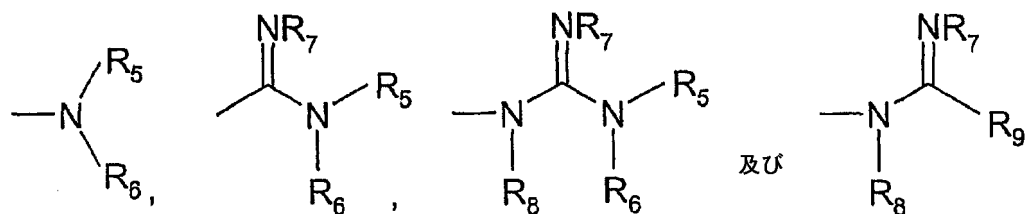
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (XI) が下記

【化 2 4】



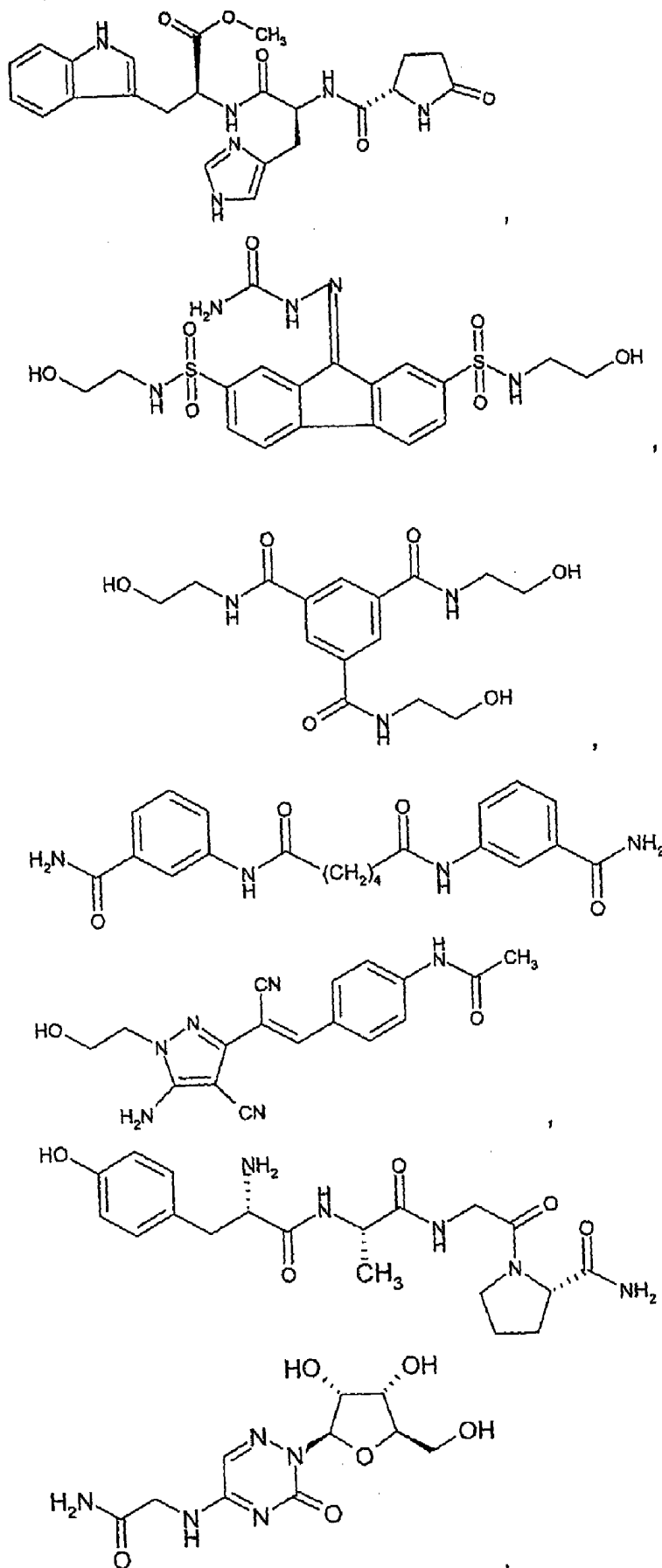
(式中、 X_{28} は、 CH_2 基、O、S 及び NR_{26} 基 (式中、 R_{26} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され; X_{29} は、N 又は CH 基を表し; X_{30} は、 CH_2 基又は NR_{27} 基を表し (式中、 R_{27} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。); X_{31} は、N 又は CH 基を表し; D_{27} 、 D_{28} 及び各 D_{29} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

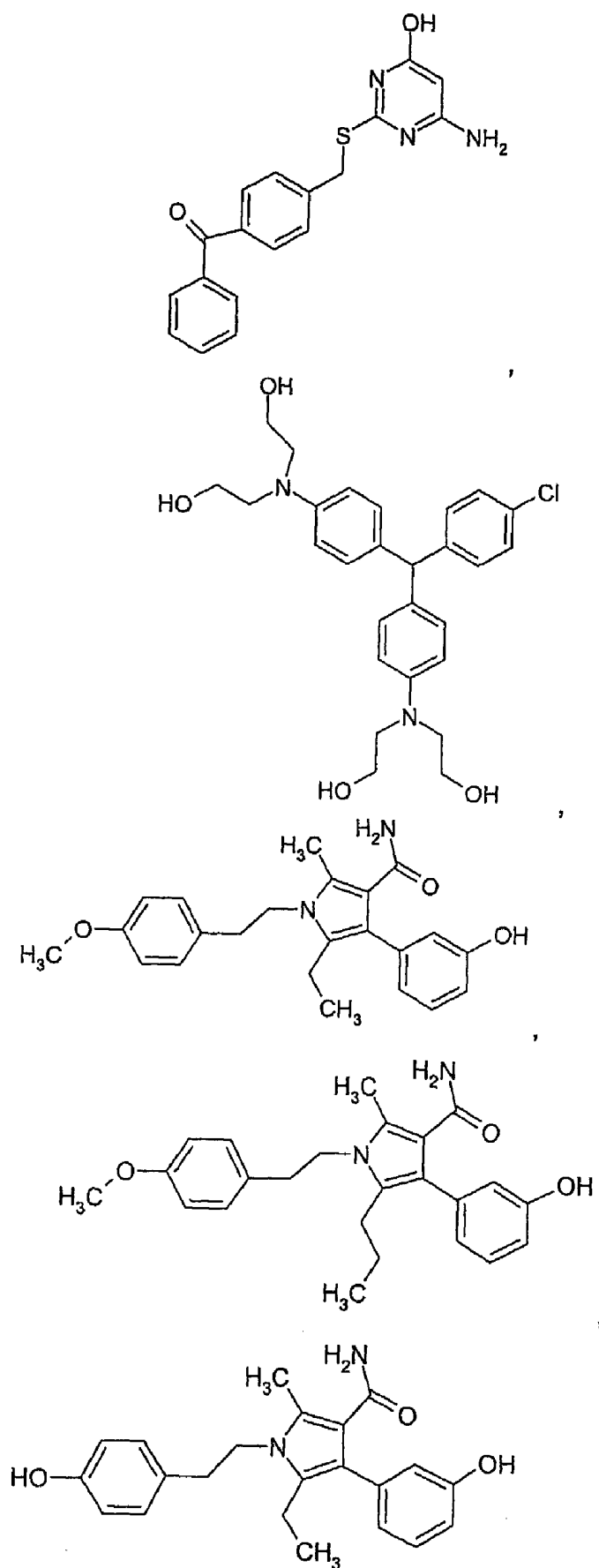


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、又はこれらの医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートであり、ただし、化学式 (I) ~ (XI) で表される化合物が下記

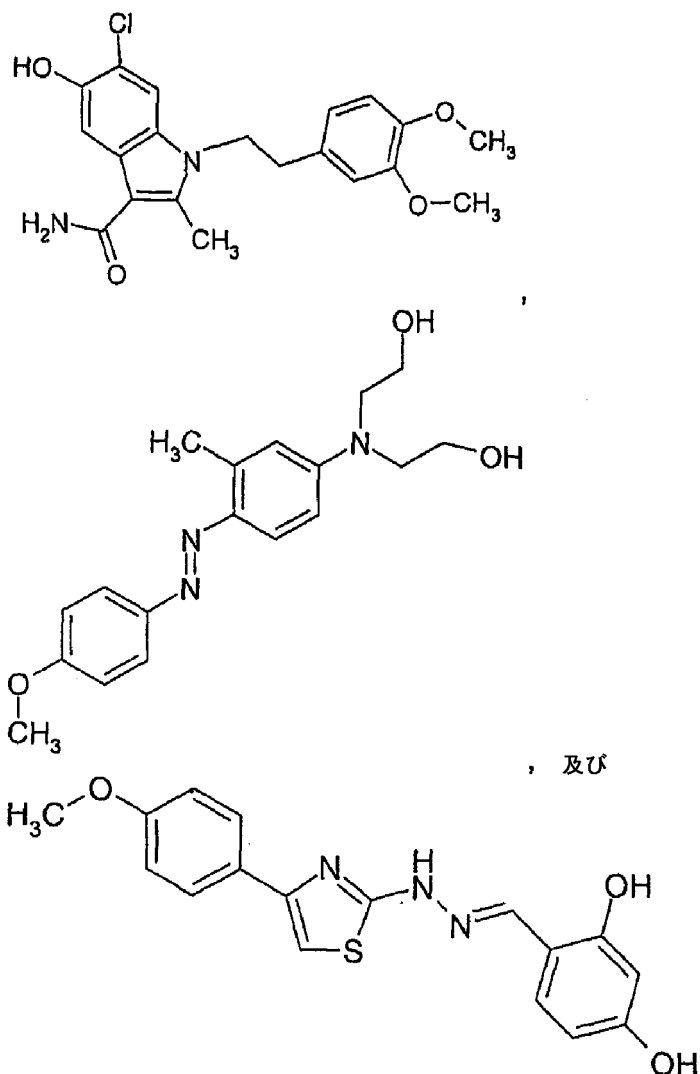
【化 2 6】



【化 2 7】



【化 2 8】



から成る群から選択される化合物ではない化合物。

【請求項 26】

TrkB 受容体が存在する環境で用いるための医療機器の製法であって、該医療機器を、TrkB 受容体分子に結合特異性及び / 又は調節特異性を持つ化合物から成る組成物で被覆することからなり、該化合物が脳由来神経栄養因子 (BDNF) の - ターンループの類似体である製法。

【請求項 27】

下記 (a) 及び (b) から成る TrkB 受容体を有する細胞を描写する方法。

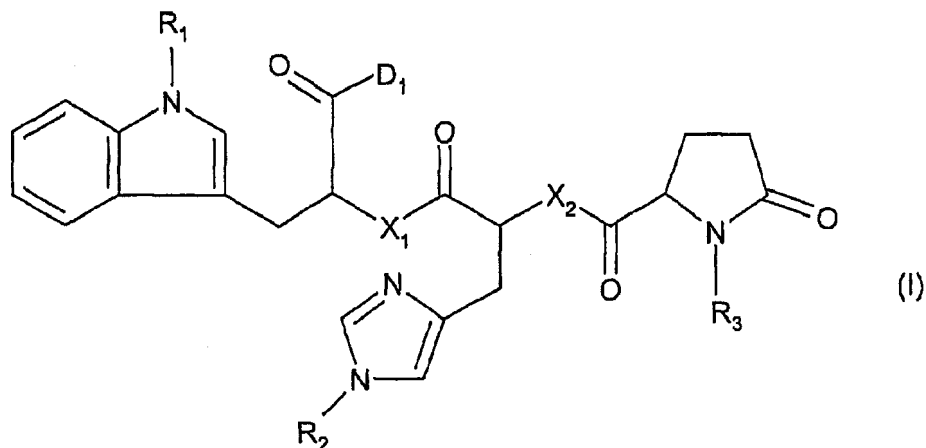
(a) 該細胞に、TrkB 受容体分子に結合特異性及び / 又は調節特異性を持つ化合物を接触させる段階であって、該化合物が脳由来神経栄養因子 (BDNF) の - ターンループの類似体であり、該化合物が更に検出可能なラベルを含む段階、及び

(b) 該検出可能なラベルを検出し、それにより該細胞を描写する段階

【請求項 28】

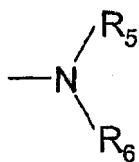
活性成分と医薬グレードの担体との単位投与量から成る医薬組成物であって、該活性成分が化学式 (I) ~ (XI) のいずれか 1 つの構造を有する化合物から選択される化合物、又はこれらの医薬的に許容されうる塩、エステル、アミド若しくはカーボネートであり、該化学式 (I) が下記

【化 1】



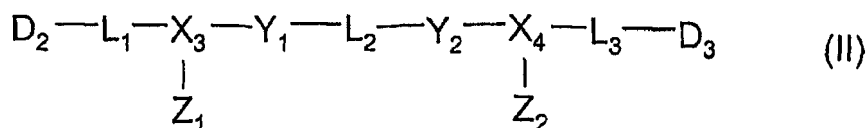
(式中、R₁、R₂及びR₃は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され；X₁及びX₂は、独立して、CH₂基及びNR₄基(式中、R₄は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)から選択され；D₁は水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基及び下式の基

【化 2】



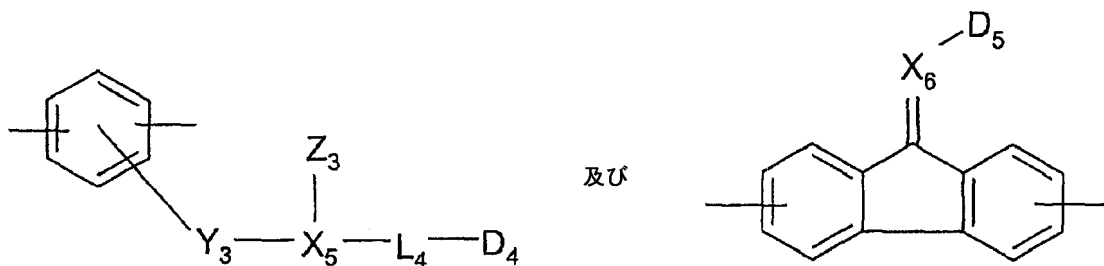
(式中、各R₅及びR₆は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリール基である。)からなる群から選択される。)で表される構造を持ち、
該化学式(II)が下記

【化 4】



(式中、L₁及びL₃は、独立して、C₁～C₅のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基及び置換アリーレン基からなる群から選択され；L₂は、C₁～C₅のアルキレン基、アリーレン基、アラルキレン基、置換アリーレン基、

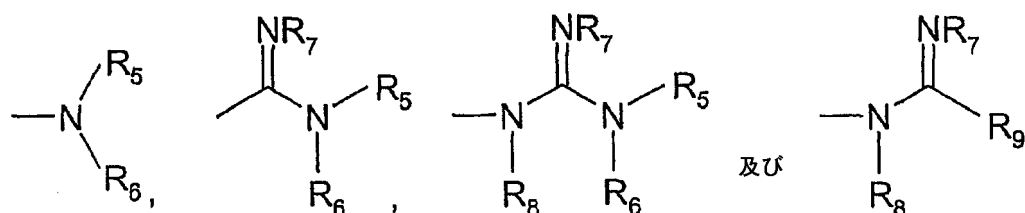
【化 5】



からなる群から選択され；L₄は、C₁～C₅のアルキレン基であり；Z₁、Z₂及びZ₃は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基及びアラルキル基から選択され；X₃、X₄、X₅及びX₆は、独立して、N又はCH基であり；Y₁、Y₂及びY₃は、独立して、カルボニル基、スルホニル基又はメチレン基であり；D₂、D₃、D₄及びD₅

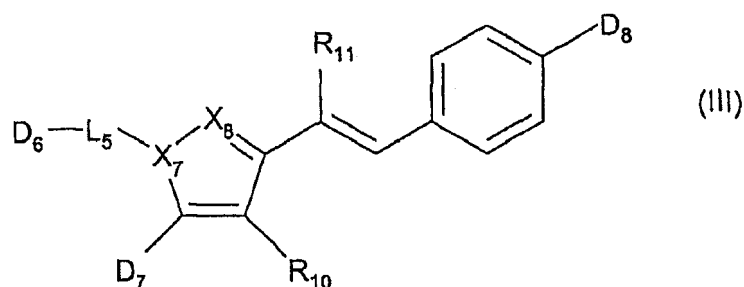
は、独立して、水素原子、アルキル基、ハロ基、水酸基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、アシルオキシ基、カルボキシル基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



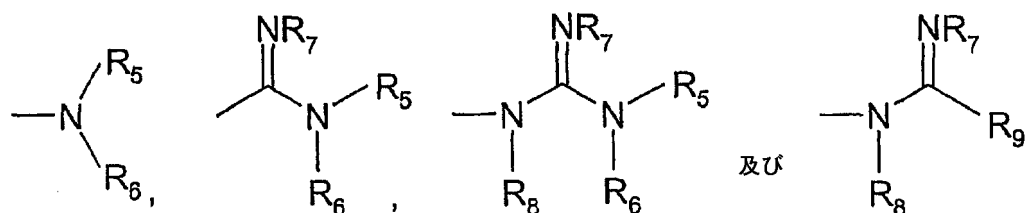
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (III) が下記

【化 8】



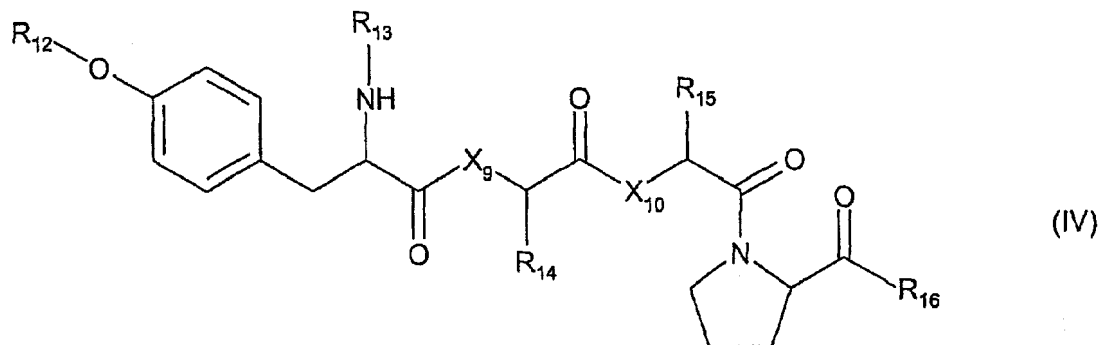
(式中、 L_5 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_7 及び X_8 は、独立して、N又はCH基であり； R_{10} 及び R_{11} は、独立して、水素原子、ハロ基、アルキル基及びシアノ基から成る群から選択され； D_6 、 D_7 及び D_8 は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシル基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



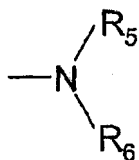
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (IV) が下記

【化 1 0】



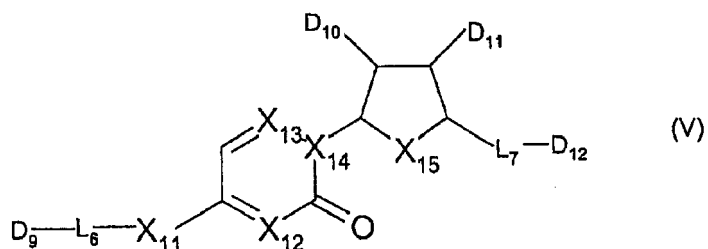
(式中、 X_9 及び X_{10} は、独立して、 CH_2 基又は NR_4 基 (式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) であり； R_{12} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{13} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、アシル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基及びジアルキルカルバモイル基からなる群から選択され； R_{14} 及び R_{15} は、独立して、水素原子、アルキル基、置換アルキル基及びアラルキル基からなる群から選択され； R_{16} は、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、水酸基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アラルコキシ基、及び

【化 2】



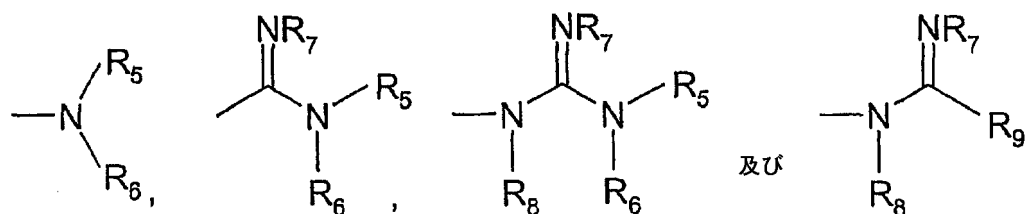
(式中、 R_5 及び R_6 は水素原子、アルキル基、アラルキル基又はアリール基から選択される。) からなる群から選択される。) で表される構造を持ち、
化学式 (V) が下記

【化 1 2】



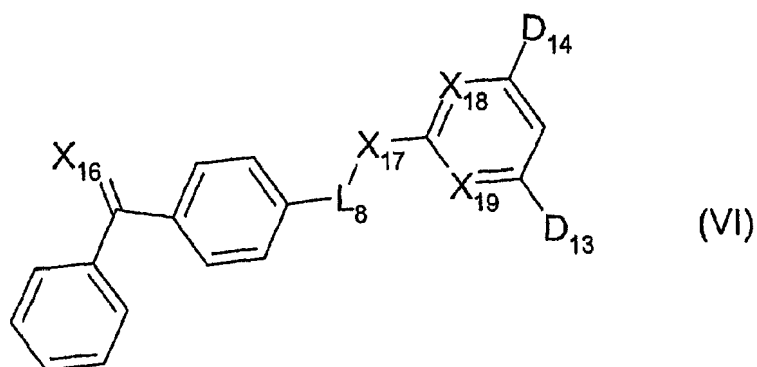
(式中、 L_6 及び L_7 は、独立して、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{11} は、 O 、 S 、 CH_2 基又は NR_{17} 基であり (式中、 R_{17} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)； X_{12} 、 X_{13} 及び X_{14} は、独立して、 N 又は CH 基であり； X_{15} は、 O 、 S 及び NR_{18} 基 (式中、 R_{18} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から成る群から選択され； D_9 、 D_{10} 、 D_{11} 及び D_{12} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、アシルオキシ基、カルボキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



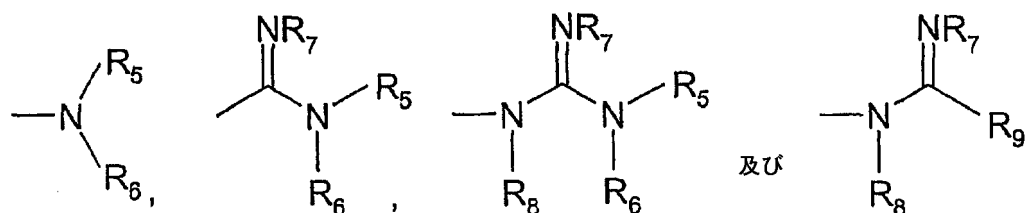
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (VI) が下記

【化 14】



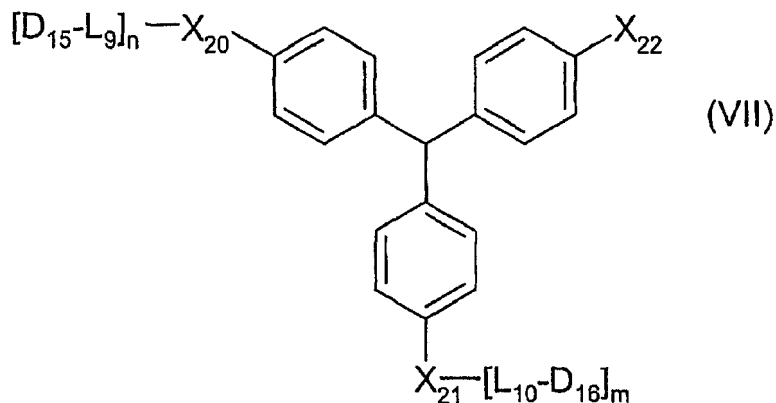
(式中、 L_8 は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{16} は、O、S 及び NR_{19} 基 (式中、 R_{19} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{17} は、O、S、 CH_2 基及び NR_{20} 基 (式中、 R_{20} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択され； X_{18} 及び X_{19} は、独立して、N 及び CH 基から選択され； D_{13} 及び D_{14} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



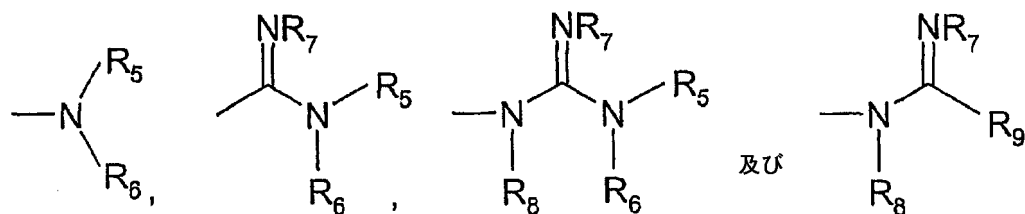
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (VII) が下記

【化 16】



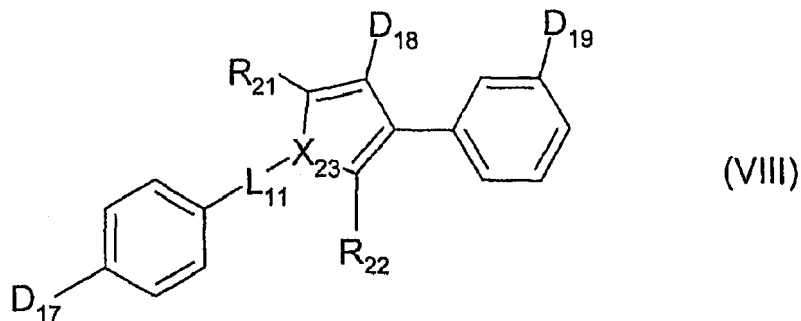
(式中、 m 及び n は、独立して、1又は2であり；各 L_9 及び L_{10} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{20} 及び X_{21} は、独立して、 CH 基、 CH_2 基、 N 及び NR_4 基（式中、 R_4 は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）から選択され； X_{22} は、水素原子及びハロ基から選択され；各 D_{15} 及び D_{16} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



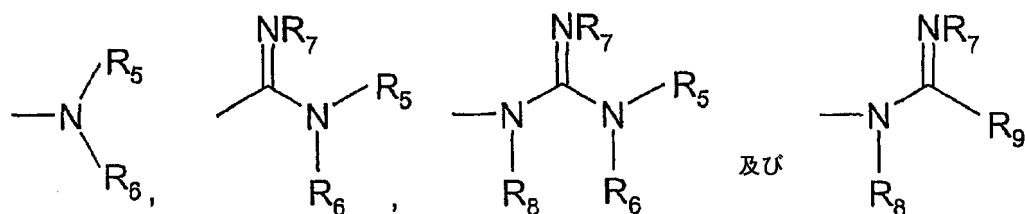
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。)から選択される。)で表される構造を持ち、化学式(VIII)が下記

【化 18】



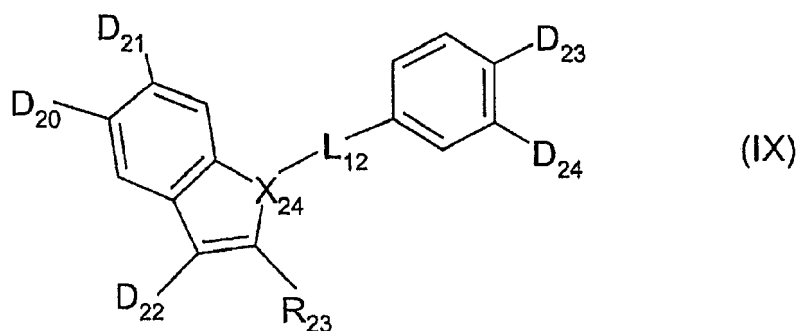
(式中、 L_{11} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{23} は、 N 又は CH 基を表し； R_{21} 及び R_{22} は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{17} 、 D_{18} 及び D_{19} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



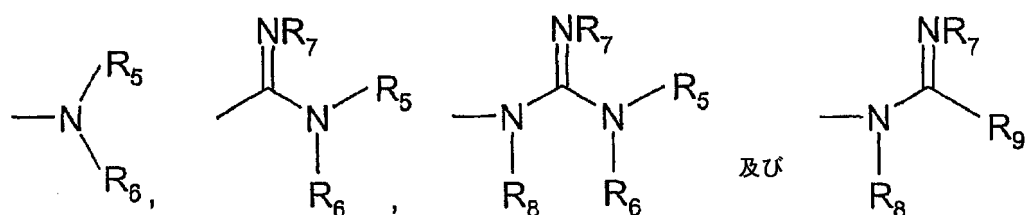
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (IX) が下記

【化 20】



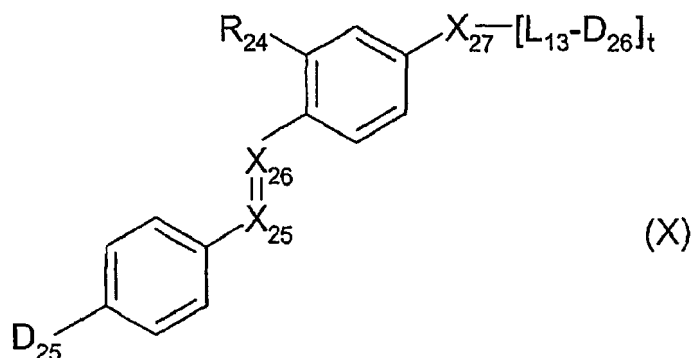
(式中、 L_{12} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{24} は、N又はCH基を表し； R_{23} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から成る群から選択され； D_{20} 、 D_{21} 、 D_{22} 、 D_{23} 及び D_{24} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



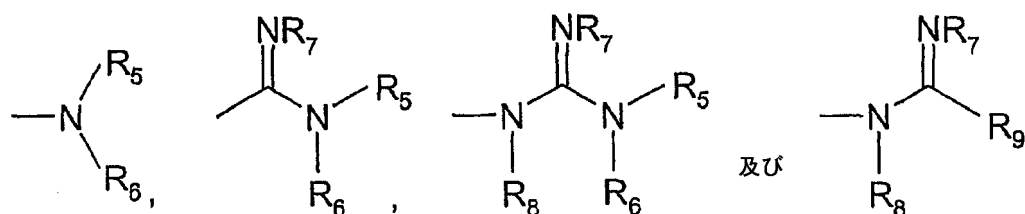
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (X) が下記

【化 2 2】



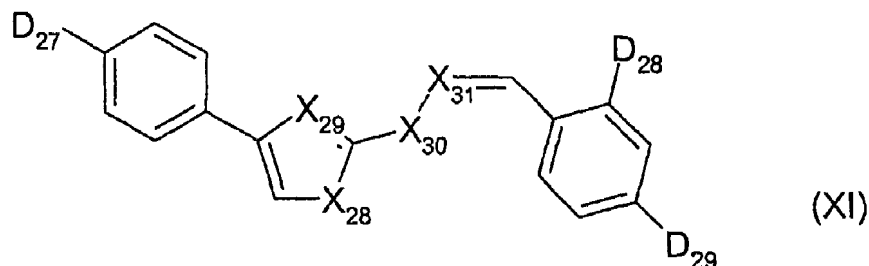
(式中、 t は 1 又は 2 であり；各 L_{13} は、存在してもしなくてもよく、存在する場合には、 $C_1 \sim C_5$ のアルキレン基を表し； X_{25} 及び X_{26} は、N 及び CH 基から選択され； X_{27} は、N、CH 基、 CH_2 基及び NR_{25} 基（式中、 R_{25} は水素原子又はアルキル基を表す。）から選択され； R_{24} は、水素原子、アルキル基、アラルキル基、アリール基及びハロ基から選択され； D_{25} 及び各 D_{26} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】



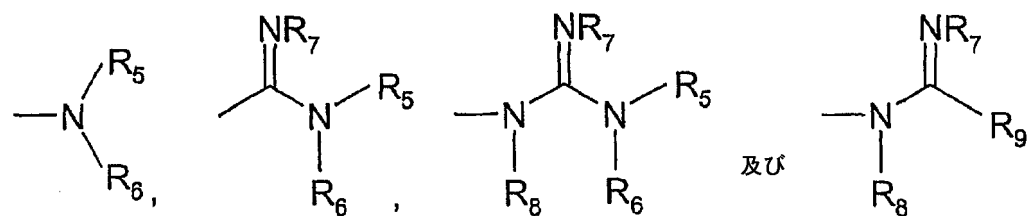
(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持ち、化学式 (XI) が下記

【化 2 4】



(式中、 X_{28} は、 CH_2 基、O、S 及び NR_{26} 基（式中、 R_{26} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）から選択され； X_{29} は、N 又は CH 基を表し； X_{30} は、 CH_2 基又は NR_{27} 基を表し（式中、 R_{27} は水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。）； X_{31} は、N 又は CH 基を表し； D_{27} 、 D_{28} 及び各 D_{29} は、独立して、水素原子、アルキル基、アリール基、アラルキル基、ハロ基、水酸基、アルコキシ基、アラルコキシ基、アリールオキシ基、メルカプト基、メルカプトアルキル基、カルボキシ基、アシルオキシ基、アルキルオキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、アラルコキシカルボニル基、アシルアミノ基、カルバモイル基、アルキルカルバモイル基、ジアルキルカルバモイル基、

【化 6】

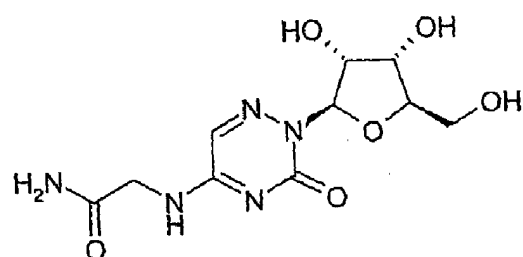
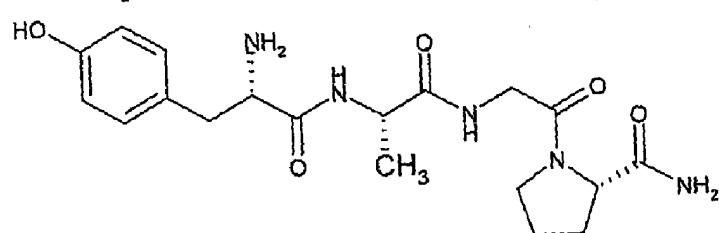
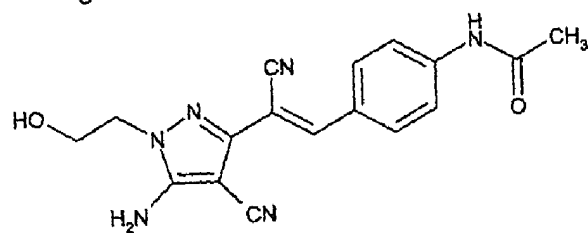
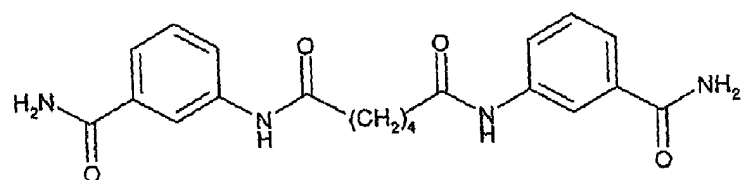
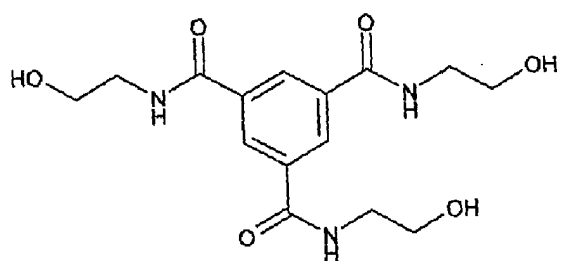
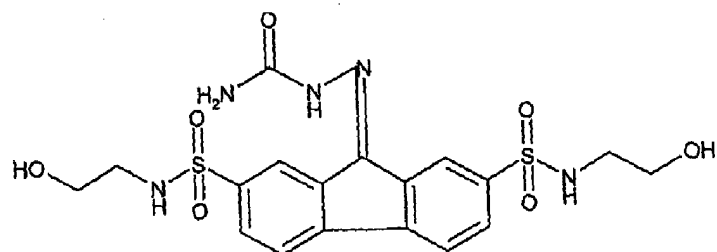
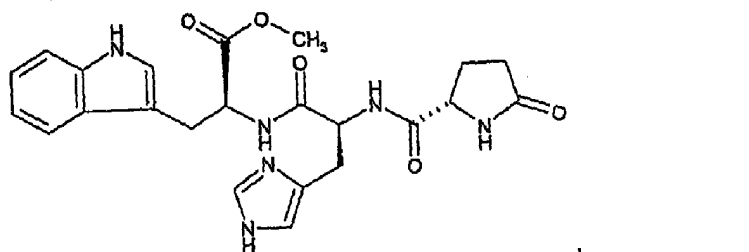


(式中、 R_5 、 R_6 、 R_7 、 R_8 及び R_9 は、独立して、水素原子、アルキル基、アラルキル基及びアリール基から選択される。) から選択される。) で表される構造を持つ医薬組成物。

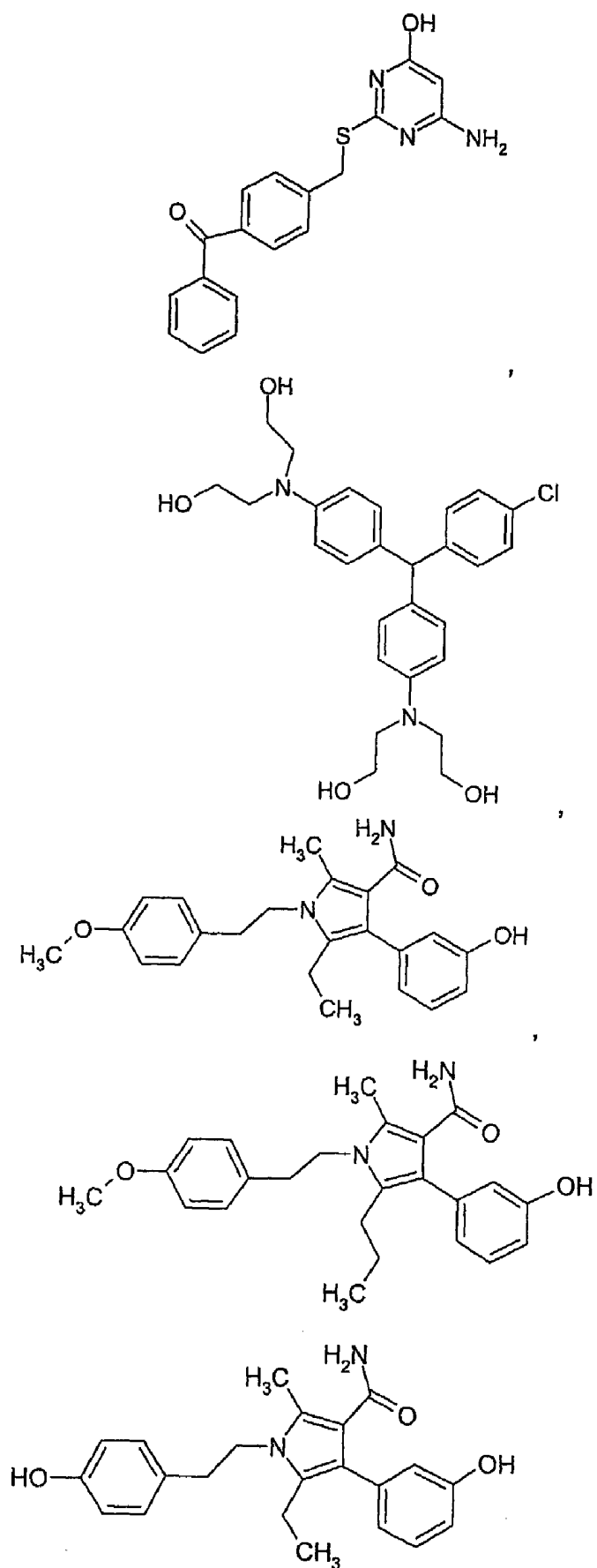
【請求項 29】

前記活性成分が下記

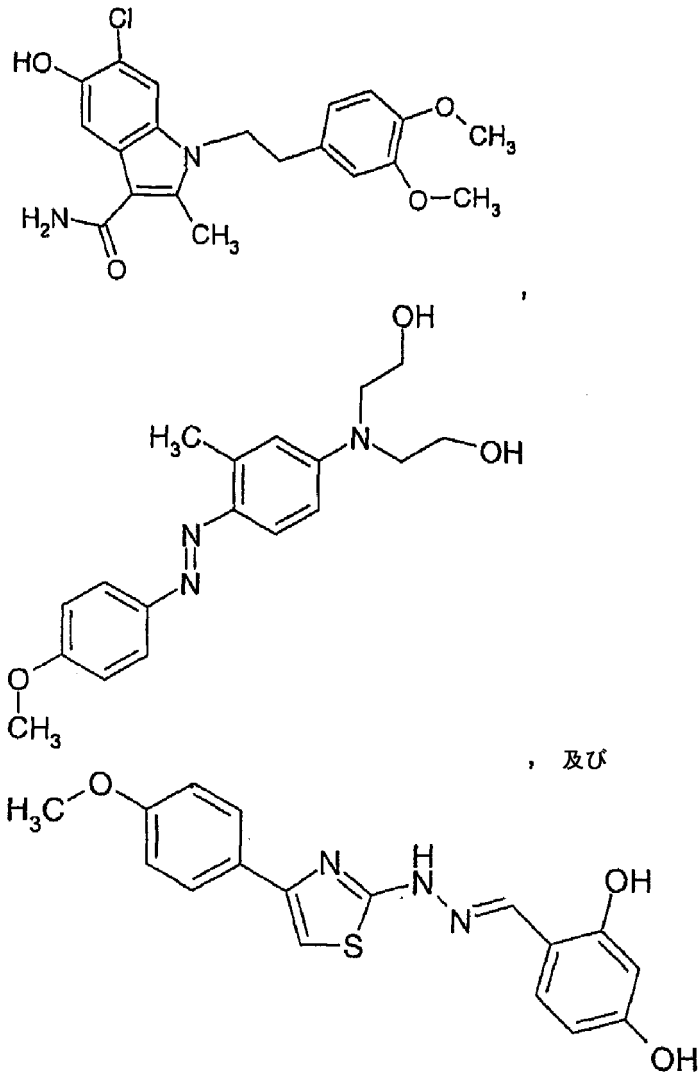
【化 2 6】



【化 2 7】



【化 2 8】



, 及び

から成る群から選択される請求項 2 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 3 0】

前記組成物が経口又は非経口投与のための組成物である請求項 2 8 又は 2 9 に記載の医薬組成物。

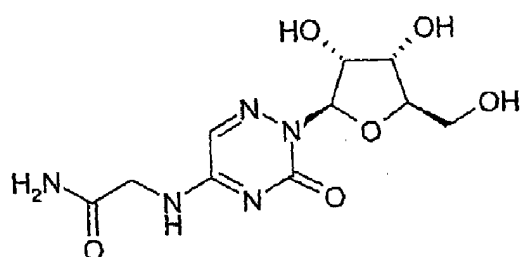
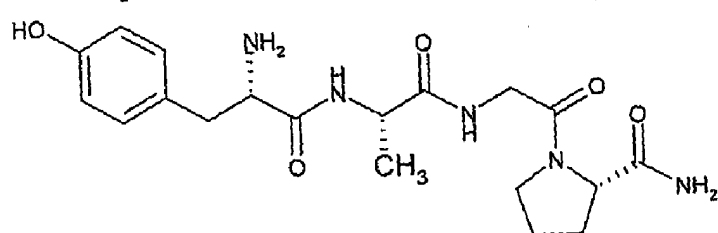
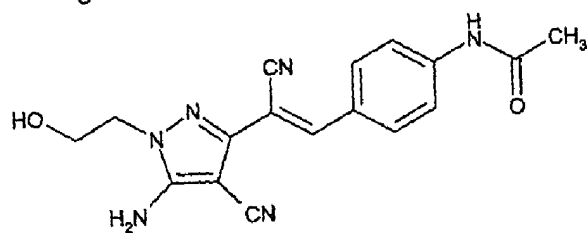
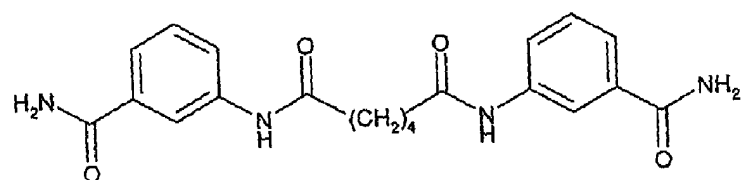
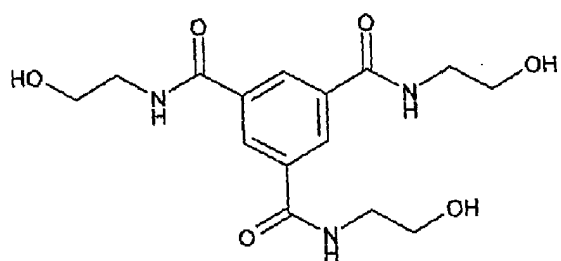
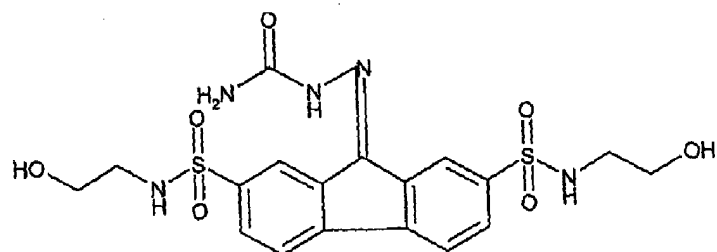
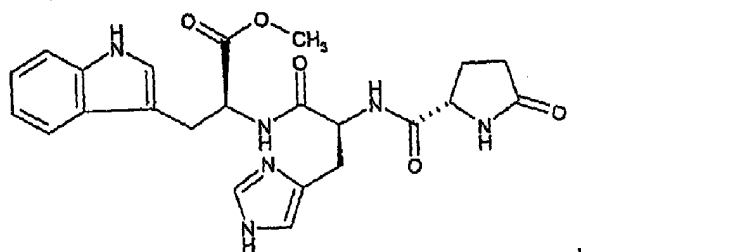
【請求項 3 1】

前記組成物が更に第 2 の活性成分を含む請求項 2 8 ~ 3 0 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

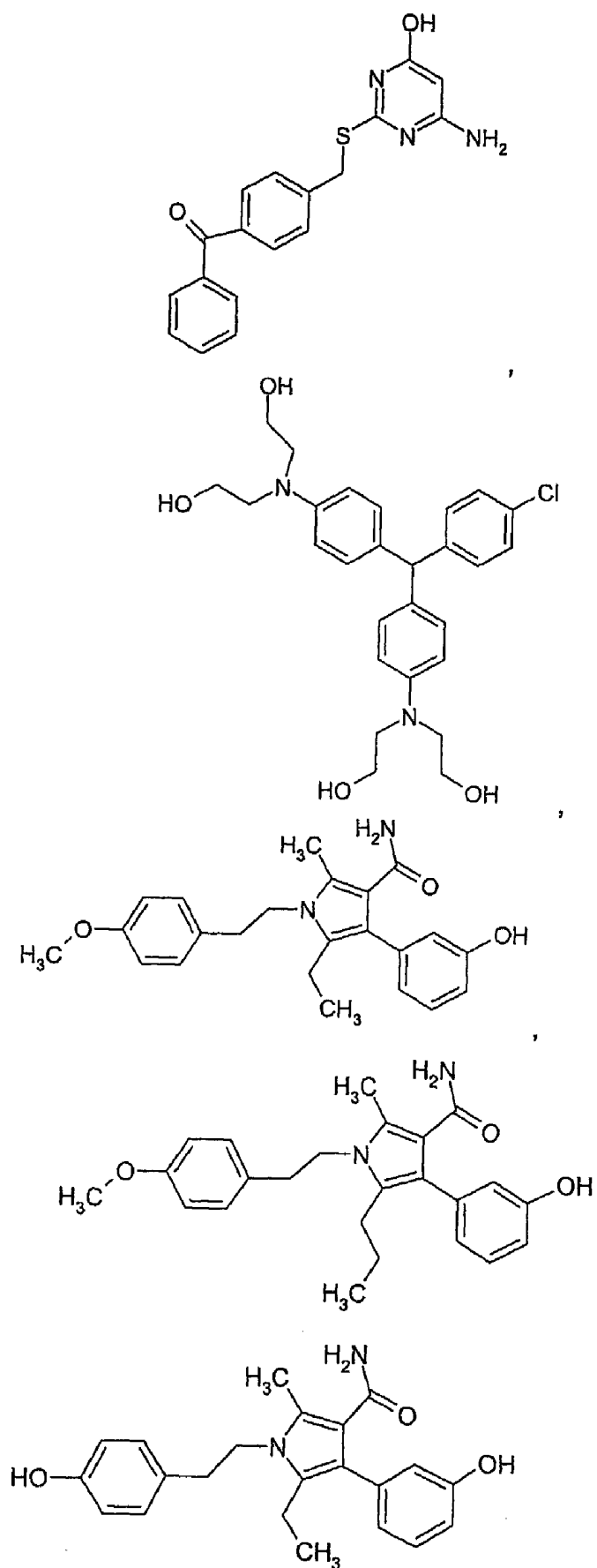
【請求項 3 2】

TrkB 受容体に接触し、それを活性化し又はそれを抑止することにより治療できる疾患の治療を必要とする患者の疾患を治療するため又は神経細胞若しくはその他の細胞の生存を促進するための薬剤であって、有効量の、下記

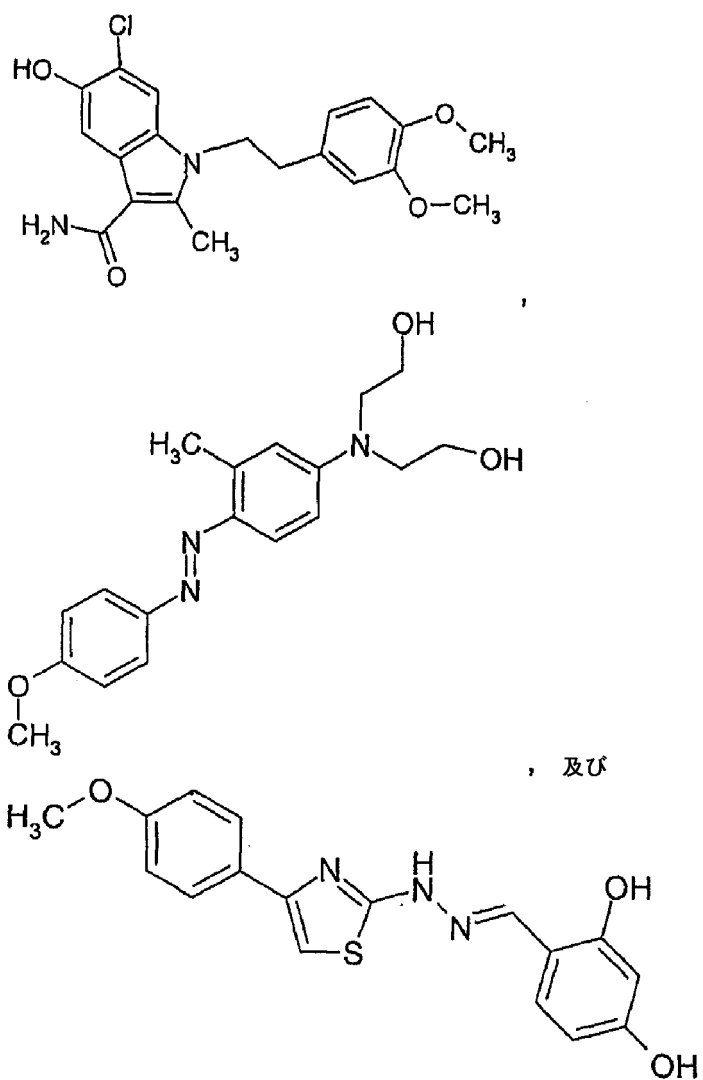
【化 2 6】



【化 2 7】



【化 2 8】



のいずれかの化合物から成る薬剤。